



琉球大学

大学院 医学研究科・保健学研究科
医学部 医学科・保健学科

〒903-0215
沖縄県中頭郡西原町字上原 207 番地
TEL(098)895-3331 (代)
<https://www.med.u-ryukyu.ac.jp/>



琉球大学

◎ 大学院 / 医学研究科・保健学研究科
◎ 医学部 / 医学科・保健学科

2020 概要

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE, SCHOOL OF HEALTH SCIENCES
GUIDE BOOK





UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE, SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

CONTENTS 目次

本学部の基本理念	3
移転計画	4
1 沿革 HISTORY	5
2 歴代学部長・研究科長 SUCCESSIVE DEANS	9
3 教育・研究の特色 EDUCATION, RESEARCH	10
4 社会貢献・国際交流 SOCIAL CONTRIBUTIONS AND INTERNATIONAL EXCHANGE	17
5 組織図 ORGANIZATION CHART	19
6 職員 ACADEMIC AND ADMINISTRATIVE STAFFS	21
7 講座及び分野配置図 DEPARTMENTS AND SUBJECTS MAP	28
8 学生の定員・現員及び入学状況 QUOTA AND ADMISSION OF STUDENTS	29
9 大学院 GRADUATE SCHOOLS	30
10 解剖体 AUTOPSIES FOR GROSS ANATOMY	31
11 図書・学術雑誌 COLLECTION OF BOOKS AND JOURNALS	31
12 附属施設 LABORATORY CENTERS	32
13 各講座等主要研究 OUTLINE OF MAIN RESEARCH PROJECTS	34
14 土地・建物・建物配置図 CAMPUS AND BUILDINGS	39
15 アクセス ACCESS	40

地域に根ざし世界 に向けた高度医療

東南アジア・南太平洋地域の医療交流拠点

南に開かれた国際性豊かな医学部



大学院医学研究科長・医学部長

石田 肇

Dean,
Hajime Ishida, M.D., Ph.D.

本学部の基本理念

FOUNDING CONCEPT OF THE FACULTY

琉球大学医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者を育成することを基本目的としています。

加えて、沖縄県の置かれた自然、地理及び歴史的特性をふまえ、島嶼環境に由来する困難な地域保健医療の充実や地域特性に根ざした医学・医療の課題解決に努めると共に、アジア・南太平洋地域を中心とする南に開かれた国際性豊かな医学部を目指しています。

The essential purpose of the Faculty of Medicine is to nurture physicians and medical science specialists who are willing to develop their specialized knowledge and skills with high ethical standards in professional research areas, and to carry out the research in all fields of medicine and medical science by responding adequately to the latest progress and social problems.

In addition, the Faculty is obligated to improve medical care in the local community, to resolve medical and health care problems, and to extend its promotional activities to countries in the Asian and Pacific regions based on recognition of the natural environmental conditions, geographic location and historical situation in the Ryukyu Islands.



副学部長

岸本 英博

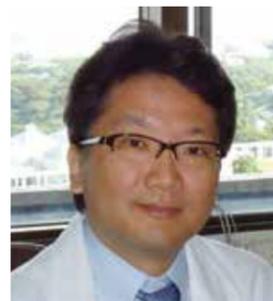
Vice-Dean,
Hidehiro Kishimoto, M.D., Ph.D.



副学部長

山城 哲

Vice-Dean,
Tetsu Yamashiro, M.D., Ph.D.



副学部長

高橋 健造

Vice-Dean,
Kenzo Takahashi, M.D., Ph.D.



副学部長

豊里 竹彦

Vice-Dean,
Takehiko Toyosato, R.N., Ph.D.



医学科長

筒井 正人

Head,
Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.



大学院保健学研究科長・保健学科長

小林 潤

Dean,
Jun Kobayashi, M.D., Ph.D.



移転計画

琉球大学医学部・琉球大学病院は、現キャンパスから北に約5.5km離れた「キャンブ瑞慶覧(西普天間住宅地区)」跡地へ令和6年度に移転します。新キャンパスでは「高度医療・研究機能の拡充」、「地域医療水準の向上」、「国際研究交流、医療人材育成」の3つを大きな柱とした医療拠点を整備し、沖縄振興や長寿県沖縄の復活、国際保健(グローバル・ヘルス)への貢献等を目指します。



現在の移転予定地の様子



※イメージ写真は基本設計段階のものであり、今後の実施設計の進捗により変更になる可能性があります。

新しい医学部・病院のイメージ

※外観イメージは基本設計段階のものであり、今後の計画の進捗により変更になる可能性があります。



空から見た移転予定地

新しい医学部・病院の立地



北西を望むオーシャンビュー

新キャンパス予定地

現キャンパス

移転に先立ち、学生及び皆様へ、より快適で安全な医学教育・研究・診療環境を提供するために、沖縄健康医療推進基金を設立しました。皆様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

沖縄健康医療
推進基金
にご協力をお願いします!



昭和44年

保健学部校舎
(那覇市与儀)



昭和48年

保健学部及び附属病院
の鳥瞰図
(那覇市与儀)



昭和54年

医学部の設置



昭和55年

与儀キャンパス
医学部校舎(旧保健
学部校舎)及び医学
部附属病院



昭和40年8月	佐藤栄作総理大臣が来沖し「琉球大学に医学部を設置する」との声明がなされた。
12月 December,1965	琉球政府内に琉球大学医学部設置構想委員会が設置された。 The Committee for Planning the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, was organized by the Government of the Ryukyu Islands.
昭和41年7月	第一次琉球大学医学部設置調査団が来沖し、「医療の基礎的条件を整備するための基本的態度と医療要員の要請に関する準備的措置要領」が発表された。
11月	第二次調査団が来沖し、次の4原則が確立された。 1. 県立中部病院をインターン指導の教育病院とする。 2. 琉球大学に保健学部を新設する。 3. 那覇病院を改築し、教育病院とする。 4. 公衆衛生の施策を強化する。
November,1966	The Japanese Government investigation committee for establishment of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, visited Okinawa and made the following four announcements: 1. A postgraduate medical education program will be established at the Okinawa Chubu Hospital. 2. A Faculty of Health Sciences will be newly founded in the University of the Ryukyus. 3. Naha Hospital will be renovated for adapting the postgraduate medical education program. 4. Public health programs will be facilitated.
昭和42年1月	琉球政府は、行政主席の諮問機関として、琉球大学医学部設置準備委員会を設置し、教育機能と地域医療機能を併有する新病院建設基本構想を検討した。
5月	本土側施設整備専門部会と沖縄側専門委員会が新那覇病院建設計画について討議し、将来は、医学部教育病院としての機能を持ち、当面は保健学部の実習も兼ねた総合病院とすることになった。
昭和43年5月 May,1968	琉球大学設置法の一部改正により保健学部(定員数60名)が設置された。 The Faculty of Health Sciences was founded by the Government of the Ryukyu Islands (Enrollment quota was 60 students), based on a royal revision of the act for incorporating the University of the Ryukyus.
昭和44年4月 April,1969	保健学部の第一期生59名が入学した。 Fifty-nine students enrolled for the first term in the Faculty of Health Sciences.

昭和45年6月	琉球大学設置法の一部改正により新那覇病院は琉球大学附属病院となった。
昭和47年5月 May,1972	本土復帰に伴い琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。 The Hospital of the University of the Ryukyus was reorganized into the Hospital of the Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, when the administration of Ryukyu was returned to Japan from the U.S. government.
昭和49年11月	地域医療部、救急部、理学療法部が随時設置され、総合病院として承認された。
昭和50年3月	臨床研修指定病院となった。
昭和52年4月 April,1977	琉球大学医学部創設準備室が設置された。 The Preparatory Section for the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus was launched.
12月	沖縄県解剖体確保推進協議会が結成された。
昭和53年10月	解剖体保存棟が保健学部敷地内に完成した。
昭和54年1月	医学部の昭和54年10月設置、昭和56年4月学生受け入れが内定した。
2月	沖縄県は献体組織“琉球大学でいご会”を結成した。
3月	沖縄県は、財団法人琉球大学医学部設置協力を設置した。 国立学校設置法の一部改正により昭和54年10月琉球大学医学部が設置された。(医学科31講座) また、昭和56年4月学生受け入れ(定員数医学科100名、保健学科60名)が決定した。
昭和55年8月	本学の関連教育病院(県立中部病院)について本学学長と沖縄県知事の間で協定を締結した。
10月	大学設置審議会大学設置分科会(浅田敏雄主査他4名)による医学科実施調査が行われた。
昭和56年3月	第1回医学部解剖体慰霊祭が解剖体保存棟前で行われた。

昭和56年4月 April,1981	保健学部が医学部保健学科に改組。保健学部附属病院は医学部附属病院となった。 The Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, and its Hospital were reorganized into the School of Health Sciences, Faculty of Medicine, and Hospital of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus.
4月	医学部医学科31講座のうち8講座(解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、寄生虫学、内科学第一、外科学第一、眼科学)が先行設置され、保健学科は4大講座(基礎保健学、保健管理学、保健医療学、保健技術学)に再編成された。
4月	昭和56年度入学式(医学科100名、保健学科59名)が行われた。
April,1981	Students (100 medical and 59 health sciences students) were enrolled for the first term at the newly established Faculty of Medicine.
10月	医学部開学記念式典並びに祝賀会が開催された。
昭和57年4月	医学科に7講座(解剖学第二、薬理学、法医学、内科学第二、小児科学、放射線医学、整形外科)が設置され、計15講座となった。
10月	基礎講義実習棟、解剖法医棟及びポンプ室が竣工した。
12月	解剖学、生理学、生化学の講義及び実習が上原団地で開始された。
昭和58年2月	基礎研究棟及び保健学科棟が竣工した。
3月	保健学科及び医学科基礎系講座が上原団地へ移転した。福利棟(がじゅまる会館)が竣工した。
4月	医学科に7講座(生理学第二、細菌学、保健医学、皮膚科学、外科学第二、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学)が設置され、計22講座となった。
10月	R I・動物実験施設が竣工した。
12月	臨床講義棟、附属病院、中央設備機械室が竣工した。
昭和59年1月	臨床研究棟が竣工した。

昭和59年3月	授乳施設、管理棟、附属図書館医学部分館、高エネルギー・高気圧治療施設棟が竣工した。
4月	医学科に6講座(病理学第二、ウイルス学、内科学第三、脳神経外科学、泌尿器科学、麻酔科学)が設置され、計28講座となった。医学部及び附属病院の事務部が一元化され医学部事務部となったことに伴い、事務組織が改編され事務部長、事務部次長、4課制(総務課、管理課、学務課、医事課)となった。
7月	7月1日～10月14日、新病院移転・開院準備のため休診となった。 7月1日～8月2日、附属病院が上原団地へ移転した。医学部施設竣工並びに医学部附属病院の開院記念式典が挙行された。
10月	医学部附属病院(400床)の完成に伴い、診療を再開した。
昭和60年3月	体育館、多目的運動場が竣工した。
4月	医学科に3講座(生化学第二、精神神経科学、歯科口腔外科学)が設置され、計31講座となった。附属病院に第三内科が新設され、計17診療科となった。附属病院の病床数が200床増床され、計600床となった。
6～7月	附属病院の200床増床に伴い、病棟移転が行われた。
昭和61年4月 April,1986	琉球大学大学院保健学研究科(保健学専攻、修士課程)が設置された。(定員10名) The Graduate School of Health Sciences (Master's degree program) was founded. (Enrollment quota was 10 students)
4月	保健学科の入学定員が臨時的に5名増員され、計65名となった。附属病院に高気圧治療部が設置された。
昭和62年3月	R I診療棟が竣工した。

昭和57年

建設中の医学部及び
附属病院
(西原町上原)



昭和58年

医学部及び附属病院の
全景
(西原町上原)



平成6年

旧与儀キャンパス跡の
記念碑建立
(那覇市与儀)



昭和62年4月	琉球大学大学院医学研究科(博士課程)(形態機能系専攻、生体制御系専攻、環境生態系専攻)が設置された。(定員数30名)
April,1987	The Graduate School of Medicine (Doctoral degree program) was founded. (Enrollment quota was 30 students)
7月	タイ国のチェンマイ大学と学術交流協定を締結した。
昭和63年4月	附属地域医療研究センターが設置された。(10年期限)
April,1988	The Research Center of Comprehensive Medicine was founded in this decade.
平成元年3月	リニアク診療施設棟が竣工した。
5月	附属病院に輸血部が設置された。
平成2年3月	附属地域医療研究センター棟が竣工した。
6月	医学部に臨床検査医学講座が新設され、計32講座となった。
11月	医学部開学10周年記念式典が行われた。
平成3年3月	MRI-CT装置棟が竣工した。 精神病棟(40床)が承認された。(一般病床から精神病棟へ) 中華人民共和国の中山医科大学と学術交流協定を締結した。 附属実験実習機器センターが設置された。
March,1991	The Research Laboratory Center was founded.
4月	医学部医学部に3学期制が導入された。
平成5年4月	附属動物実験施設が設置された。
April,1993	Institute for Animal Research was founded.
5月	英国医学協会(GMC)より海外有資格医師の限定登録の認可を受けた。
12月	高嶺徳明顕彰碑が建立された。
平成6年8月	特定機能病院として承認された。
平成7年4月	附属病院に血液浄化療法部が設置された。
平成9年4月	附属病院に医療情報部が設置された。

平成10年3月	附属地域医療研究センターが廃止された。
4月	附属沖縄・アジア医学研究センターが設置された。
April,1998	The Okinawa-Asia Research Center of Medical Sciences was founded.
平成11年4月	附属病院に周産母子センターが設置された。 医学科の入学定員が95名となった。
平成12年4月	附属病院に病理部が設置された。 保健学科の入学定員の臨時募集が廃止され、計60名となった。
平成13年4月	医学部に臨床薬理学講座が新設され、計33講座となった。 附属病院に光学医療診療部が設置された。 医学部に第3年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)
平成14年4月	医学部に救急医学講座が新設され、計34講座となった。
平成15年3月	附属沖縄・アジア医学研究センターが廃止された。 理学療法部が廃止された。
4月	医学部は34小講座が6大講座(形態機能医科学、地域環境医科学、病態解析医科学、生体制御医科学、器官病態医科学、高次機能医科学)に、保健学科は4大講座が6講座(基礎看護学、成人・老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学)にそれぞれ再編成された。 大学院医学研究科の3専攻が改組され医科学専攻(先進情報医科学領域、機能再生医科学領域、環境長寿医科学領域)及び感染制御医科学専攻(独立専攻)(感染分子生物学講座、分子感染制御学講座、感染病態制御学講座)が設置された。 リハビリテーション部が設置された。
平成16年4月	琉球大学は国立大学から国立大学法人へとなった。 大学院医学研究科修士課程医科学専攻が設置された。
April,2004	The University of the Ryukyus was reorganized by the National University Corporation from the National Universities. The Graduate School of Medicine (Master's degree program) was founded.
平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。

平成18年2月	リハビリテーションセンター(作業療法棟)が竣工した。
10月	大韓民国の延世大学校と部局間国際交流協定を締結した。モンゴルのモンゴル保健総合大学と部局間国際交流協定を締結した。南アフリカ共和国のケープタウン大学と部局間国際交流協定を締結した。
平成19年3月	附属病院がエイズ診療拠点病院に指定された。
4月	大学院保健学研究科が改編され、修士課程が博士前期課程に、博士後期課程が新たに設置された。
April,2007	The Graduate School of Health Sciences (Doctoral degree program) was founded.
平成20年2月	附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定された。
4月	事務組織が改編され、医学部事務部、附属病院事務部(事務部長、課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課))となった。
平成21年4月	医学部に第2年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)医学部の入学定員が7名増員され(内2名は9年期限)、計102名となった。
11月	附属病院が沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に指定された。
平成22年4月	大学院医学研究科が大学院講座化(部局化)され、医科学専攻(3コース、33講座)、感染制御医科学専攻(1コース、8講座)に再編された。 医学部の第3年次特別編入が廃止された。 医学部の入学定員が5名増員され、計107名となった。 附属病院に骨髄移植センターの設置が認可された。
平成23年1月	附属病院に寄附講座(地域医療システム学講座、地域医療教育開発講座)が設置された。
4月	事務組織が改編され、事務部長5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。
12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟が竣工した。
平成24年3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンターが竣工した。
4月	病理診断科が設置された。

平成25年2月	機能画像診断センターが竣工した。
平成26年2月	台湾の台北医学大学と部局間国際交流協定を締結した。
3月	フィリピン共和国のフィリピン大学公衆衛生校と部局間国際交流協定を締結した。
4月	大学院医学研究科博士課程の2専攻を改組し、医学専攻が設置された。(定員数30名)
10月	ラオス人民民主共和国のラオス保健科学大学と部局間国際交流協定を締結した。
11月	救急災害医療棟が竣工した。
12月	沖縄県地域医療支援センターが設置された。
平成27年2月	附属病院に救急科が設置された。
3月	附属病院に形成外科が設置された。
4月	医学部の入学定員が5名増員され、計112人となった。 大学院医学研究科にウイルス学講座、臨床研究教育管理学講座が新設され、計42講座となった。 再生医療研究センターが設置された。 附属病院の検査部と輸血部が統合され、検査・輸血部が設置された。
平成28年4月	附属病院にリハビリテーション科が設置された。
8月	臨床工学室が設置された。
10月	在宅医療推進センターが設置された。
平成29年9月	超音波センターが設置された。
平成30年4月	形成外科学講座が新設された。
11月	医学教育分野別認証評価認定を受けた。
令和2年4月	事務組織が改編され、上原キャンパス事務部(事務部長、総務課、企画課、管理課、医事課、学務課となった)

保健学部長

松林久吉 (初代保健学部長)	昭和 45年 9月
松崎吉彦	昭和 48年 9月
西山勇	昭和 50年 9月
杉浦正輝	昭和 52年 9月
照屋寛善	昭和 54年 9月

医学部長

大鶴正満 (初代医学部長)	昭和 54年 10月
永盛肇	昭和 62年 4月
大澤炯	平成 3年 4月
茨木邦夫	平成 5年 4月
平山清武	平成 9年 4月
柗山幸志郎	平成 10年 4月
岩政輝男	平成 12年 4月
坂梨又郎	平成 16年 4月
佐藤良也	平成 20年 4月
須加原一博	平成 23年 4月
松下正之	平成 25年 4月
石田肇	平成 29年 4月

大学院保健学研究科長

大鶴正満 (初代大学院保健学研究科長)	昭和 61年 4月
竹中静廣	昭和 62年 4月
石津宏	平成 元年 4月
竹中静廣	平成 3年 4月
宮城一郎	平成 4年 4月
普天間弘	平成 6年 4月
崎原盛造	平成 7年 4月
石津宏	平成 10年 4月
河野伸造	平成 12年 4月
外間登美子	平成 16年 4月
高倉実	平成 22年 4月
福島卓也	平成 26年 4月
小林潤	令和 2年 4月

大学院医学研究科長

佐藤良也 (初代大学院医学研究科長)	平成 22年 4月
須加原一博	平成 23年 4月
松下正之	平成 25年 4月
石田肇	平成 29年 4月

琉球大学医学部は、わが国で最も新しい国立大学医学部として昭和54年に設置されました。その13年前に医学部の前身である保健学部が設置されています。現在では、医学部に医学科と保健学科が、大学院には医学研究科(修士課程、博士課程)、保健学研究科(博士前期課程・博士後期課程)が設置されています。また、平成22年度から大学院医学研究科が大学院講座化され、医学科教員は大学院教員になりました。今後、令和7年の移転に合わせて、国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点形成を目指しています。具体的には、高度医療・研究機能の拡充、地域医療水準の向上、国際研究交流、医療人材育成を行います。

教育においては、高い倫理観を備えた質の高い医療人の教育・養成を目指し、医学、保健学、医療技術学に関する普遍的な教育を実施しています。島嶼県沖縄の地域医療を充実させるため、平成21年度から沖縄県と協力して沖縄県出身の学生を地域枠として医学科に受け入れ、離島地域病院実習を含む地域医療教育に力を入れています。一方、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる医療人材を養成するために海外での臨床実習を導入しています。その結果もあり、平成30年に日本医学教育評価機構(JACME)から評価基準に適合との認定を受けました。さらに、大学院研究科では沖縄の地域特性に根ざした医学・医療の課題を解決する研究者、指導者を養成するための教育・研究を進めています。

研究面では、がん、脳疾患、循環器疾患などの先進的な研究に加え、わが国で唯一の亜熱帯気候下に位置する島嶼県という沖縄の地域特性に根ざした特色ある研究に力を入れています。具体的には、熱帯・亜熱帯環境下での感染症研究、長寿県沖縄の復興を目指す長寿医学、急速な生活習慣の変化にともなう代謝疾患、生活習慣病の予防、狭い婚姻圏に由来する遺伝性疾患、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学、東南アジア地域での国際保健などの領域で活発な基礎的・臨床的研究を進めています。



さらに、平成27年度は、沖縄県の再生医療中核拠点としての再生医療研究センターを新設し、再生・発生分野の研究を進め、平成28年度には、先端医学研究センターを設置しました。

診療面では、琉球大学病院は沖縄県で唯一の特定機能病院であり、エイズ診療拠点病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの指定、骨髄移植センターの設置により感染症やがん、心臓・循環器疾患、肝疾患、肝移植や骨髄移植などの高度医療を担うとともに、離島医療を含む地域医療の充実にも寄与しています。また、卒後臨床研修病院としてRyuMICプログラムを推進しており、他の病院群では出来ない臨床研修プログラムを提供しています。特に県や医師会などと協力して、オール沖縄の観点から「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を平成24年3月に開設しました。同センターは、多彩なシミュレーターや医療機器を保有しているため、基礎から生涯教育まで、レベルに応じた教育・研修ができ、県内の医療人や医療系学生が活用しています。また、平成24年度にFIMACC(機能画像診断センター)を開設し、平成26年度には災害医療と救急医療の機能を兼ね備えた救急災害医療棟を新設し、平成30年度に地域災害拠点病院に指定されています。さらに、平成26年度に沖縄県の施策として、医師の地域偏在を解消することを目的に「沖縄県地域医療支援センター」が開設され、医学生や医師のキャリア形成支援や、医師不足病院等への支援を行っています。

社会貢献として、地域住民の健康維持・福祉の充実に多大な貢献をしていることはもちろん、沖縄の生物資源を健康に応用する研究などを通じて地域産業の育成にも積極的に関わっています。また、医学部独自の高大接続授業を進めています。国際交流としては、学部および大学院学生を海外の大学に派遣、AMED等の支援によるアフリカ等での医療協力、台北医学大学等との研究交流を進めています。



教育における特色

医学教育(医学教育企画室)

医学教育企画室は、質の高い医療人の育成および沖縄県の医療水準向上のために、学生指導や臨床実習の企画・実施など医学教育全般に係る業務を遂行しています。室長(併任)の他、専任教員2名と事務職員4名に加えて、15名程度の企画室員(併任)によって構成されています。臨床実習以外に、医療現場におけるコミュニケーション能力や初歩的診察能力の修得を目的として、医学科と保健学科合同でのシミュレーション演習を1年次に開講しています。加えて将来のキャリア・パスについて考える医学概論、チーム基盤型学習(TBL)形式でのチュートリアル学習、患者・家族と直接に接触する各種実習[外来患者付添い実習、体験学習(療養型施設・沖縄愛楽

園訪問見学実習)、離島地域病院実習、離島診療所及び海外の大学院での参加型臨床実習]も担当しています。また学務課と協力して、医学科4年次対象の共用試験(CBT・OSCE)、医学科6年次対象の臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)の実施にも関わっています。日々医学部生と向き合い、学習支援・修学相談等も行い、本学が国際基準に適合した医学教育を提供できるように努めています。



[写真:シミュレーション演習風景(一次救命処置)]

長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病対策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療が出来るよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域

の病院や保健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点をやしなっています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を書けた東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。



公衆衛生看護実習
公民館で学生の健康教育

アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また英語コースによる特別プログラム:Okinawa Global Health Science Programをもつことから、フィリピン、ラオ

ス、インドネシア、中国から多数の留学生を受け入れてきています。この受け入れにはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進するなかで実現しています。留学生だけでなく日本人大学院生の積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修士生は、各国省庁、大学、開発機関などで施策に携わるなど、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改新力と生涯持続力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症などの沖縄の地域に根ざした問題、ES細胞・iPS細胞の確立により近年著しく進歩している再生・発生分野の研究等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。

臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院では「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念に基づき、「高い人間性」を持ち患者本位の質の高い医療を提供できる医療人の養成、「高い専門性」「や」豊富な知識」に基づく総合力を発揮し先進医療の開発・推進を担う人材の養成に努めています。

沖縄県の医療者育成は全国でも非常に高い評価を受けており、附属病院はその中で中心的な役割を果たしています。医師では、医学部学生には医学教育企画室を中心に臨床実習やクリニカルクラークシップが実践されており、初期研修医に対しては琉球大学病院臨床研修センターによるRyuMIC初期臨床研修プログラムの運営、そして琉球大学病院キャリア形成支援センターは専門医を目指す専門専攻医への琉球大学病院

専門研修プログラムの運用のみならずFD企画や復職支援がなされています。琉球大学病院では、地域医療に配慮した多彩な研修プログラムに加え、熟練ある指導者のもと屋根瓦式の教育体制がとられています。また、大学内に設置された全国有数のシミュレーションセンターを用いた研修も教育の質の向上に寄与しています。同時に、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、リハビリセラピスト、ME技師など、多くの医療職種の教育・研修(琉球大学病院キャリア形成支援センターがサポート)も計画的に実施し、より質の高い医療をチーム医療で実践していただけるように努めています。これからの教育は、人材育成だけに留まらず、地域医療の充実、臨床研究の推進、さらに「医療の安全のさらなる向上」に大きく寄与しています。

シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に手技に習熟する、突発事態への対応とチームワークを予め練習しておくといったトレーニングを通じて、沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。特に医療安全の確保は病院の最も重要な役割のひとつであり、注力しているところです。

本学の医学部学生の実技演習に加え、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けの教育企画シリーズ、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内の医療教育機関および医療機関に幅広くご利用いただいています。

開設から8年を経て、年間およそ延べ1万5~8千人の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。今後さらに多くの方々に活用していただけるように改善を進めたいと思います。

各種情報については<http://okinawa-clinical-sim.org/>をご参照ください。



研究における特色①

川の水から人獣共通感染症の病原体と保菌動物の候補を同時検出

1) 病原性レプトスピラとは

病原性レプトスピラは多くの動物に感染する人獣共通病原細菌であります。本菌は、腎尿管で増殖し尿中へと排出され、ヒトは、尿に汚染された川や土壌との接触により感染します。レプトスピラ症の軽症型の場合は風邪と似た症状を示しますが、重症型の場合は黄疸、出血、肝・腎臓の障害などの症状がみられます。沖縄県での患者発生は他県に比べて多く、河川でのレジャー等により集団発生が起きており、本県の生命線である観光産業へ大きく影響するものとして懸念されています。本症を制御し、対策戦略を計画するには、感染サイクルのキーポイントである環境中のレプトスピラの生態および感染リスクを上昇させる保菌動物の解明が必要であります。しかし、レプトスピラは環境中での濃度が低いため検出が難しく、また、環境サンプルから菌体を単離・培養をすることも困難です。

2) 環境 DNA を用いたレプトスピラの検出法の開発

我々は、レプトスピラの生態的特徴を明らかにするために、新規な方法を開発しました。水中に存在する「環境 DNA」に着目し、メタバーコーディング法にてレプトスピラが保有する遺伝子 (lipL32 と 16S rRNA) と動物が保有する遺伝子 (12S rRNA) を PCR の標的にすることによって、レプトスピラと同時に出現するレプトスピラの保菌動物の候補を検出する技術を開発しました。

具体的には、河川で採水を行い、ろ過により懸濁物を高度に濃縮してから (図 1a)、DNA を抽出しました (図 1b)。抽出された環境 DNA から、レプトスピラと動物の遺伝子を PCR により増幅して、その DNA 配列を次世代シーケンサーという機器で大量解析しました (図 1c)。



図 1. レプトスピラ DNA 検出法の概要。(a) 500 mL の河川水をろ過して懸濁物を濃縮。(b) ろ紙から DNA を抽出し、レプトスピラが保有する lipL32 と 16S rRNA 遺伝子、動物のミトコンドリア DNA が保有する 12S rRNA 遺伝子、細菌全般が保有する 16S rRNA-V4 遺伝子をターゲットとした PCR 増幅を行う。(c) 増幅した DNA を次世代シーケンサーで大量配列決定し、大型コンピュータで解析することで、配列が由来する生物(レプトスピラ、動物、細菌の種)を特定。

3) レプトスピラと保菌動物の候補を同時検出に成功

開発した方法を用いて、夏季(7月~10月)にレプトスピラ症の発生が報告されている沖縄島の 2 つの河川で計 80 検体を解析した結果、病原性の *Leptospira alstonii* や *L. interrogans*、中間型の *L. wolffii* など 6 種のレプトスピラが検出され、その DNA 配列数が採水時の雨の量と有意に相関することも確かめられました。さらに、同じ環境 DNA サンプルを用いて、レプトスピラと同時に出現する動物の DNA を分析したところ、レプトスピラの保菌動物であることが知られるイノシシやオオコウモリなど 10 種の動物を特定することが出来ました(図 2)。これらの動物の中には、レプトスピラとの関係が不明瞭な底生魚類やイモリなども含まれています。しかしながら、これらは保菌動物ではなく、雨による濁流と相関して検出されたに過ぎない可能性もあると考えられます。

以上の研究結果から、レプトスピラ症の予防においては、雨による濁流が見られる川や、イノシシなどの野生哺乳類が息する付近の水場や泥土を避けるのが望ましいということが示唆されました。また、この研究によって開発された、環境 DNA 分析に基づくレプトスピラの直接検出と保菌動物候補の推定方法は、沖縄県だけでなく様々な国や地域にも適用できます。現在スリランカとの国際共同研究が進行中であり、スリランカの農業地帯でもレプトスピラ症のリスク評価、保菌動物の管理、衛生環境の改善などに役立てられることが期待されています。この研究は、琉球大学、新潟大学、神戸大学、ペラデニア大学の研究者によって行われたもので、細菌学、DNA 分析学、生命情報科学、生態学の専門家など様々な分野の研究者が共同研究することによって実現しました (Sato et al, Scientific Reports, 2019)。

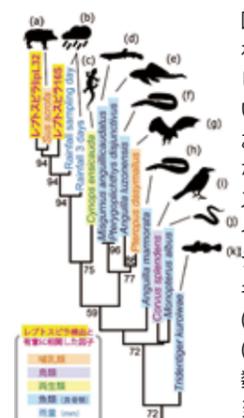


図 2. レプトスピラと有意に相関して検出された動物および環境因子。左から、レプトスピラとの相関が総合的に高い順に並んでいる。太字で示した「レプトスピラ」(lipL32 および 16S)と近い位置にあり、それらとつながる線(内部枝)が短い因子ほど、レプトスピラ検出との相関が強いことを示す。(a) イノシシ、(b)雨量、(c)シリケンイモリ、(d)ドジョウ、(e)マダラロリカリア(プレコ)、(f)ウナギ(種小名は不詳)、(g)クビワオオコウモリ、(h)オオウナギ、(i)イエガラス、(j)タウナギ、(k)ナガノゴリ。樹形図の結節点に示された数値は、その分岐の確かさ(%)を表す。当該論文 Sato et al.(2019)に基づき作成

研究における特色②

血管老化に関する臨床疫学研究

琉球大学病院第三内科が専門とする循環器・高血圧・腎臓・神経疾患は、一つの臓器ではなく全身の血管病を背景として発症することが多く、心・腎・脳-血管連関とも呼ばれています。「人は血管とともに老いる」という言葉の通り、加齢は、粥状動脈硬化(血管が狭くなる)や動脈スティフネス(血管が硬くなる)の最大の危険因子です。当講座では、血管老化の病態や治療法解明のために臨床疫学研究に取り組んでいます。

1. 足の血圧でわかる粥状動脈硬化

上腕血圧が高いほど脳心血管病発症が増加します。逆に、足(足関節)の血圧が低いほど脳心血管病発症リスクが高くなります。足の血圧は、同時に測定した上腕血圧との比(ABI)で評価し、足の血圧が上腕より 10% 以上低下した ABI が 0.9 以下になると、下肢動脈は有意に狭窄しています。その場合、全身の粥状動脈硬化が進んでいることが多く、脳心血管病発症率や死亡率が高くなります。我々は、沖縄県の人間ドック受診者(約 1 万 3 千人)を対象とした疫学研究を行い、60 歳以上では ABI が 0.9 以下の有病率が 1% 程度で、欧米人の 10~20% に比べ極めて少ないこと報告しました (Eur. J. Prev. Cardiol. 2014)。

2. 足の血圧でわかる大動脈スティフネスと小動脈硬化

足の血圧が高くても通常は問題にしません。ABI の正常値は 1.0-1.39 なので、上腕血圧が 140mmHg の場合、足の血圧の正常値は 140~194mmHg となり、その差は 50mmHg 以上にもなります。はたして、足の高い血圧は上腕とは異なり問題にならないのでしょうか。我々は、50 歳までは ABI が加齢に伴い上昇することを世界で初めて明らかにしました (Circ J. 2016)。ABI が上昇するということは、収縮期血圧の上昇が上腕より足の方が急峻ということです。収縮期血圧の加齢変化は、大動脈スティフネスの進行と小動脈硬化が原因と考えられています。そこで、「加齢に伴う ABI の上昇は、動脈スティフネスや小動脈硬化の進行を反映し、ABI が高いほど臓器障害が進んでいる」という仮説を立てて検証し、以下のことを報告しました。

- ABI が高いほど、
- 1) 蛋白尿の有病率が多い (J. Hypertens. 2014)、
- 2) 無症候性脳小血管病(微小脳出血、ラクナ梗塞、白質病変)が多い (J. Hypertens. 2016)、
- 3) 左室肥大の有病率が多い (J. Hypertens. 2020)、
- 4) 腎の小動脈硬化が高度で、腎機能が低下している (Hypertens. Res. 2020)、

5) 高血圧新規発症が多い (J Hypertens. 2019)、

以上のように、病態生理を考えることで、足の血圧ひとつから大動脈、中型動脈、小細動脈の変化がわかります。足の血圧の方が上腕血圧より病的変化が大きく、より鋭敏な血管老化のバイオマーカーである可能性があります。

3. 「塩なし文化」住民における心臓・血管老化に関する研究

洋の東西を問わず文明社会では、収縮期血圧は加齢に伴い上昇します。収縮期血圧の上昇→動脈壁の弾性線維障害→動脈スティフネスの進行→収縮期血圧の上昇、という悪循環に陥ります。しかし、食塩摂取量が極端に少ない(3g/日以下)原始生活を営む住民は、加齢に伴う血圧上昇がありません。ニューギニア島の中央高地に住むダニ族は、1938 年に探検家により飛行機から発見され、初めて歴史に登場しました。現在も食塩摂取量が少なく、食事の大半はサツマイモです。2014 年に我々は現地調査を行い、食塩摂取量が 2.1g/日(日本人の 1/5)、カリウム摂取量が 6100mg/日(日本人の 3 倍)で、収縮期血圧の加齢変化がないことを確認しました。予想に反して動脈スティフネスは加齢に伴い上昇していません (Hypertens. Res. 2018)。食事療法で血圧上昇の抑制は可能だが、動脈スティフネス抑制のためには別の方法を探索する必要があることがわかりました。2017 年の再調査では心エコー検査も行いました。高齢者でも心臓の収縮能は保たれていましたが、拡張能は低下していました。動脈や心臓のコンプライアンスの低下は、収縮能の保たれた心不全、腎硬化症、認知症など高齢化社会で増加している疾患の病態生理に深く関係しています。その解決策を見い出せば、新たな治療法の開発につながります。



ババア血管老化研究チーム(京都大学東南アジア研究所、高知大学、放送大学、チェンデラワシ大学、琉球大学)



蒸しサツマイモ(ダニ族住民)

研究における特色③

「ラクダ科VHH抗体作製技術を活用した低コスト生産性を有する感染症診断・治療薬の研究開発」

抗体は2本のH鎖と2本のL鎖の構成される分子量約150KDaの複雑なタンパク分子で、体内に侵入した抗原を特異的に認識して排除します。ラクダ科動物にはこのような一般的な抗体に加え、H鎖のみの2分子から構成される抗体が存在し、このH鎖抗体の抗原結合部位であるVHH (VH domain of H-chain antibody) は1つのドメインのみで標的抗原に結合する能力を持っています(図1)。このVHH抗体は約12.5KDaと低分子量であることから大腸菌などのタンパク質発現系で迅速に安価大量に生産することが可能です。また、温度・変性剤・pH変化などのタンパク質変性に対して高い耐性を有するなど、非常に安定な構造をしていることから長期保存安定性にも優れています。この様な性質から、現在VHH抗体は医療分野での活用は勿論のこと、電気機器などに組み込むバイオセンサーとしての応用も進められています。

一般的にVHH抗体を得るためには、大動物であるアルパカやラマなどのラクダ科動物に標的抗原を、複数回、時間を空けて免疫することが必要です。さらに、動物の飼育、免疫抗原の調整、都度のライブラリー作製等、高いコストと長い期間を要します。そこで寄生虫・免疫病態学講座では、動物免疫を必要としないVHH抗体作製法として、予め膨大な多様性を有するVHH抗体ライブラリーを作製し、少量の抗原のみを使用するスクリーニングにより、迅速にVHH抗体が開発できるシステムを構築しました。これは、11頭のアルパカ由来の血液から、約1億種

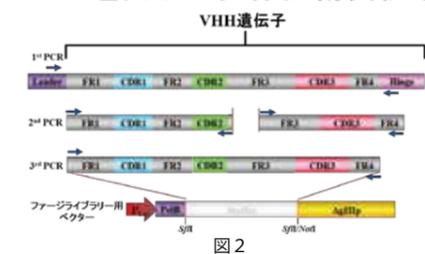
類のVHH抗体遺伝子をPCRにより増幅し、このVHH遺伝子を前半部分と後半部分の2つの遺伝子に分離し、改めてランダムに結合させることで、計算上、約1京の新規VHH抗体遺伝子を生み出しました。最終的に、これを基に約200億種類のVHH抗体ファージディスプレイライブラリーを作製しました(図2)。

標的抗原に対するVHH抗体の取得は、パニング法と呼ばれるスクリーニングで行います(図3)。このパニング工程を2~3回繰り返すことで結合性ファージを濃縮した後、単クローン化を行います。本工程は6~10日で完了することから、微量の標的抗原さえあれば10日以内にVHH抗体が開発できます。実際、既に本法により、Ebolaウイルス、インフルエンザウイルス、ノロウイルス、新型コロナウイルスなど多種多様な標的抗原に結合するVHHクローンの単離に成功しています。さらに、ライブラリーを過酷な条件下(例：高温、変性剤等)でスクリーニングを行うことで、100度の熱処理や3M尿素存在下でも抗原に結合する超安定性VHHクローンが単離できるシステムも構築しました。

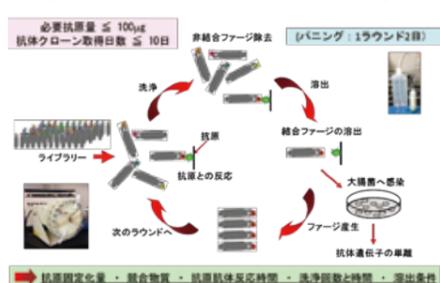
現在、これらのVHH抗体を用いた迅速簡易診断キットの開発を始め、VHH抗体を複数連結することで多特異性を発揮する抗体の開発、さらには、CAR-T細胞療法への応用や、癌化した組織など特異的な部位に薬剤等を運び込むドラッグデリバリーシステム(DDS)への応用を進めています。



VHH遺伝子の多様性創製戦略



ライブラリーからのスクリーニング法



研究における特色④

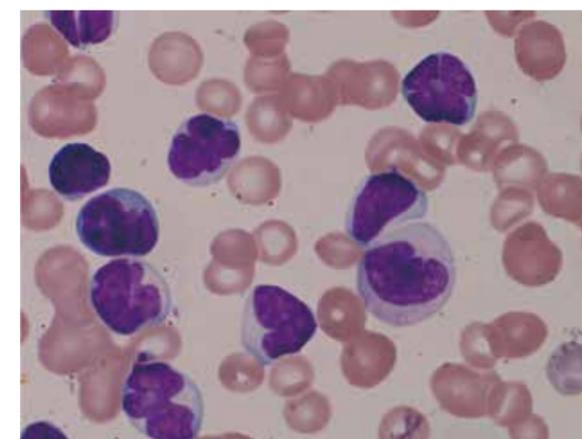
成人T細胞白血病リンパ腫の新規バイオマーカーの発見

1. 成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)について

ATLは、ヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-1)を原因とする血液悪性腫瘍です。HTLV-1キャリアは世界の中でも九州・沖縄に最も多く存在しており、ATLもこれらの地域に一致して発症しています。2008年度~2010年度の厚生労働省科学研究班の全国調査では、全国のキャリア数は約108万人と推定されています。HTLV-1キャリアが生涯にATLを発症する割合は約5%で、大多数のキャリアは病気を発症することはありません。しかしながらATLを発症すると治療は困難で、中でも急性型、リンパ腫型の高悪性度タイプはの生存期間中央値は8-10ヵ月と極めて予後不良です。ATLの治療成績向上を目指して、HTLV-1キャリアにおけるATLの発症危険因子を探索するための研究が行われ、高HTLV-1プロウイルス量などが示されていますが、明確に発症を予測する因子は分かっておりません。

2. 沖縄HTLV-1/ATL研究ネットワークおよびバイオバンクの構築

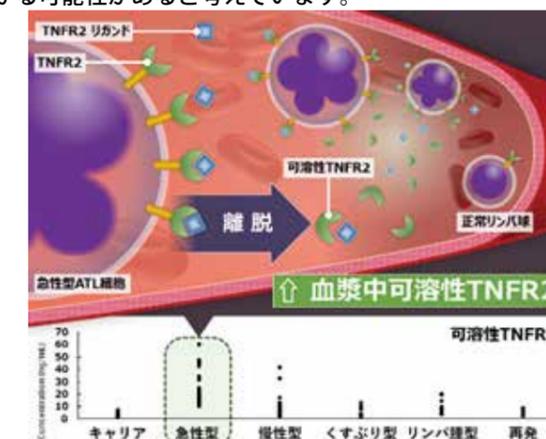
沖縄県はHTLV-1キャリア割合が高く、ATL発症の多い地域です。2012年から沖縄県の中核病院を結ぶ沖縄HTLV-1/ATL研究ネットワークが設立され、その調査で県内に高悪性度ATLは年間約70例が発症していることが明らかになりました。そして沖縄県独自のATLに対する研究を推進していくため、HTLV-1キャリアおよびATL患者の生体試料および臨床情報を集積する沖縄HTLV-1/ATLバイオバンクが構築され、現在試料の数は500を超えています。



末梢血中のATL細胞

3. ATLの新規バイオマーカーを見出すための研究

琉球大学医学部保健学科血液免疫検査学分野、大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)、免疫学講座、細胞病理学講座と日本電気株式会社(NEC)との共同研究チームは、ATLの早期診断をもたらす新規バイオマーカーの同定を目的として、SOMAscan (SomaLogic社、コロラド州、アメリカ)を用い、沖縄HTLV-1/ATLバイオバンクの血漿検体HTLV-1キャリア群、ATL患者群40ずつについて、1305種類の蛋白のプロテオーム解析を行い、両群間で比較検討しました。その結果333種類の蛋白で両群間に著明な差を認め、HTLV-1キャリアに比べATL患者で上昇していた210種類のタンパク質の中から、特に差の大きいタンパク質に注目し、ELISA法を用いた検証実験を行いました。そして可溶性tumor necrosis factor receptor 2 (TNFR2)がHTLV-1キャリアでは正常値であるのに対して、ATL患者、特に急性型において著明に上昇していることが判明し、ATL診断の新規バイオマーカーを見出しました。tumor necrosis factor (腫瘍壊死因子: TNF) はサイトカインで、その一種のTNF-αは固形がん壊死を生じさせるサイトカインとして発見され、それ以外に発熱、炎症、細胞死の誘導、腫瘍発生、ウイルス複製の阻害などの生理作用を有していることが知られています。そしてTNFR2はTNF-αの受容体の一つで、いくつかの腫瘍で増殖に働きます。可溶性TNFR2は、TNFR2が細胞表面から離脱し血中に流れ出したもので、今後ATLの発症予測、早期診断、予後予測因子となるか、臨床的意義を探索する必要があります。またTNFR2が細胞表面から離脱する機序の解明も重要な課題です。その機序の解明が新規治療法の開発に繋がる可能性があると考えています。



社会貢献 久米島デジタルヘルスプロジェクト

沖縄県の北西に位置する人口約8千人の離島、久米島は世界屈指の美しい海、車海老の養殖や泡盛の名産地として夙に有名ですが、メタボリック症候群や糖尿病に代表される生活習慣病の蔓延は沖縄県の平均レベルよりもはるかに悪化しており、小児肥満や強いインスリン抵抗性を示す学童の増加に警鐘が鳴らされてきました。久米島の人口ピラミッド構造は20年後の日本全体の人口構成と類似しており、近未来の日本全体が直面する健康・医療問題の縮図とも言われています(図1)。一方、久米島では全島Wi-Fi化や網羅率が極めて高いクラウド型の医療情報基盤が早くから整備されており、久米島町役場や公立久米島病院が中心となって久米島町民の生活習慣病の予防やスクリーニングの試みが先進的になされてきた実績があります。このような背景を踏まえ、琉球大学大学院医学研究科、久米島町、公立久米島病院、そして情報・通信・人工知能に関わる多くの企業群が連携し、内閣府 沖縄離島活性化推進事業「久米島健康増進事業」として2017年12月から2020年3月の研究期間においてIoTデバイスやAI(人工知能)を活用して生活習慣病の予防効果および改善効果を多面的に解析しました。この間、琉球大学大学院医学研究科が受給した研究費の総額は3億3千万円にのぼる大規模なもので、タスクフォースとして人体解剖学講座、分子・細胞生理学講座、内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座、先進ゲノム・検査医学講座、システム生理学講座、腎泌尿器外科学講座、衛生学・公衆衛生学講座が参画しました(図2)。介入型研究では、活動量計などのIoTデジタルヘルスデバイスによって得られる個人の医療・生体情報を集積し、行動科学的な分析、調査質問票の解析、血液検査の分析を行い、肥満症や2型糖尿病などの生活習慣病の予防や進展阻止に寄与する多様な要因を探索し、集積された膨大なデータを人工知能(AI)で分析する

ことにより、多様性を持つ個人にとって最適な生活習慣や望ましい活動量・行動パターンを推測するアルゴリズムの開発を行い、完成させました。その結果、デジタルデバイスを高頻度に活用することが効果的な減量に寄与する可能性が示唆され、特に、食事の入力頻度が高い群では平均で3.8%の顕著な体重減少効果を認めました。AIによる機械学習とフィードバックシステムを段階的に採用したこと、地域特性に基づいて個人に適した介入プログラムの生成を目指したことによって予想外の効果を生み出した可能性が想定されました(図3)。観察型研究ではメタボローム解析や腸内フローラ・発酵代謝産物の分析を通して生活習慣病の悪化・改善に関わる複数種類のメタボライトや腸内細菌群が新たに同定されており、得られた成果が今後、久米島を含む沖縄県の予防医学や日常の診療に活かされることが期待されます。家庭内排尿モニタリングIoTシステムを活用する研究からは症状が顕在化する前の未病段階の生活習慣病や動脈硬化症を早めに察知できる可能性が見えてきました。ゲノム解析研究からは久米島出身者が沖縄の他の地域とは明らかに異なる遺伝背景を有することが初めて明らかとなり、強いインスリン抵抗性の発症基盤となる可能性のある久米島特有のバリエーションも見つかってきています。食行動や運動、睡眠など私達の日々の行動パターンは個人、個人で見ると驚くほど似通っています。換言すると健康に良くない行動パターンはなかなか自力では変えられません。久米島デジタルヘルスプロジェクトの成果が沖縄県の健康長寿復興に役立つことを祈念し、本プロジェクトの趣旨に賛同と御理解を戴き、熱心に参加して戴きました久米島町民の皆様には深い感謝の意を表します。

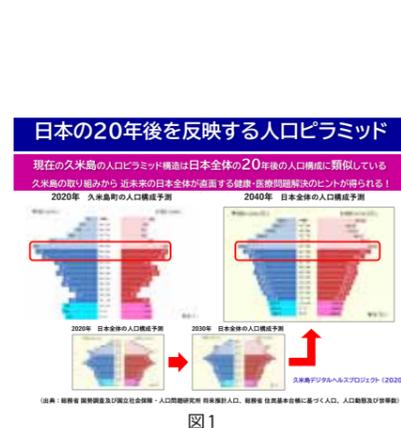


図1



図2

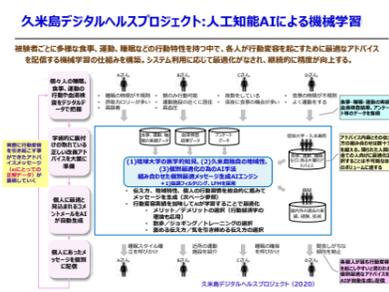


図3

国際交流

琉球大学医学部は、我が国唯一の亜熱帯気候で東アジアの中心に位置する沖縄県に立地する個性豊かな学部です。保健学科では創設以来地域貢献だけでなくアジア・太平洋島嶼地域を重点に国際的な人材育成をはかってきました。医学部では世界的な趨勢である国際水準を満たした医学教育プログラムの導入にいち早く取り組み、平成29年に国際認証を受けました。そのような特色を最大限に活かすべく、本学部では医学部、保健学科共に研究、教育、社会貢献の面で様々な国際交流が進められています。

大学間または部局間の国際交流の一環として、大学間交流協定や医学部部局間交流協定を基盤にした活動が多々行われています。平成28年度より開始された医学部医学科3年生を対象とした医科学研究プログラムにおいて、米国の4つの大学、シンガポールがん研究所に学生を受け入れてもらい、約2カ月半の研究実習を行っています。臨床実習でもハワイ大学医学部クワキニ病院、タマサート大学医学部、台北医科大学、ミシガン州立大学、シンガポール南洋理工大学のLKC医学部との間で年に1-2名の学生の相互訪問・研修が実施されており、国際水準を満たしグローバルな感覚を持つ医師の育成に注力しています。保健学科では、学部教育においてカリキュラムのなかに国際環境保健・国際保健概論・国際看護といった国際保健に関連した科目を導入するだけでなく、タイ国チェンマイ大学看護学部との学生の相互訪問による研修コースを実施して異文化理解を深めています。さらに平成30年度には学部生対象のフィリピンにおける公衆衛生短期研修をフィリピン大学公衆衛生学部との協力の上実施され、低所得国の地域保健を現場で学ぶことが実現しました。保健学研究科では大学院生の海外協定機関と連携した短期教育プログラムは活発に行われており、平成29年度には韓国延世大学グローバルヘルスセンター、平成31年度には台北医科大学公衆衛生学部との大学院生の相互受け入れを行いました。これらプログラムで本学への学生の受け入れにはJICA 沖縄センターとの協力のもと、琉球大学が技術面で委託を受けて実施している保健分野の課題別研修に双方の学生が参加すること、合わせてグローバルヘルスシンポジウムを開催し世界の保健分野の行政官とともに沖縄の公衆衛生の経験や、各国の課題解決策を学ぶ体制が実現しています。

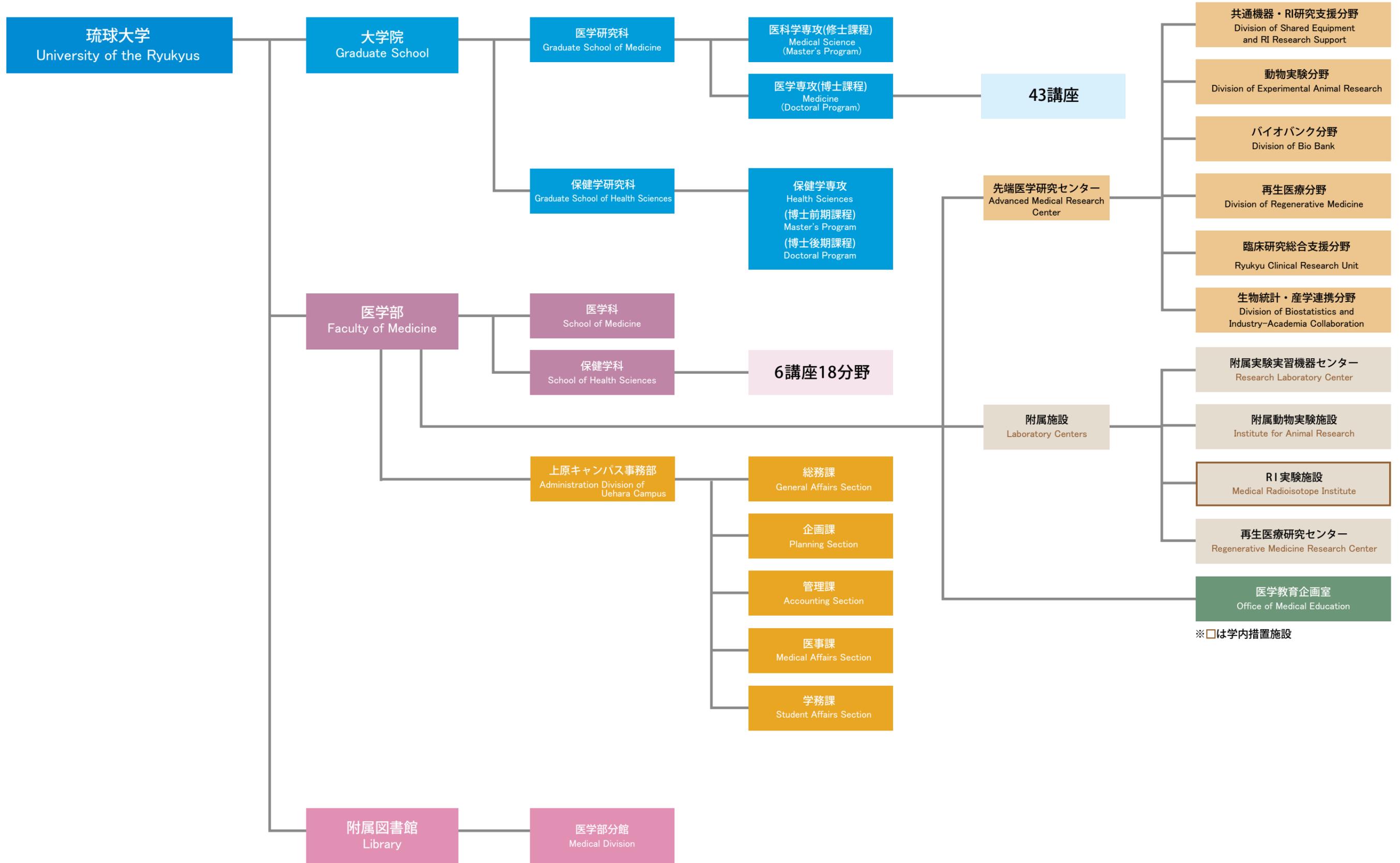
国際的な共同研究も活発に実施されており、教員や学生の相互訪問等、教育の面での活用も年々活発化しております。また、個々の研究者の活動を基盤とし、日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)や日本医療研究開発機構(AMED)の研究費等を活用して、海外のフィールドまたは大学を含む研究機関との共同研究も年々活気を帯

びております。保健学研究科病原体検査分野はe-ASIA共同研究「染色体性薬剤耐性遺伝子を保持する薬剤耐性菌の分子疫学的解析」平成28年度から3年間ベトナム、インドネシアの研究機関と協力のもと実施し成果をあげています。医学研究科皮膚科学講座は、AMEDによる「西アフリカにおけるブルーリ潰瘍とその他の皮膚NTDs対策のための統合的介入」プロジェクトを長崎大学とともに実施しています。保健学研究科国際地域保健分野では、フィリピン、インドネシア、タイ、ラオス等東南アジア各国において、多岐にわたる保健課題：学校保健、僻地保健、精神保健、高齢者保健の政策および政策実施に関連する研究を行っています。特に教室には学校保健に関するシンクタンク「国際学校保健コンソーシアム」の事務局を置き、UNESCOやWHOの国連機関や東南アジア教育大臣機構と国内外の研究機関と連携した政策提言を行っています。

琉球大学はラオス国に拠点事務所をもっていますが医学部医学科はその設置において中核的役割を果たしてきました。医学部は平成4年に開始されたJICA公衆衛生プロジェクトを皮切りに、国家の中核病院の一つであるセタチャート病院に対するの支援プロジェクトを平成29年まで25年にわたって実施してきました。令和2年にはJICA草の根プロジェクトとして「貧困僻地における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクト」が保健学研究科主体で開始される予定です。このプロジェクトでは、保健学研究科が実施した対象地域での研究成果が反映される戦略になっており、今後も大学院生の派遣が行われていく予定です。



第3回保健学研究科グローバルヘルスシンポジウム



※□は学内措置施設

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医学研究科長(併) Dean
教授 石田 肇
Professor Hajime Ishida

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

システム生理学講座 Systems Physiology

教授 宮里 実
Professor Minoru Miyazato
准教授 細川 浩
Assoc.Prof. Yutaka Hosokawa

放射線診断治療学講座 Radiology

教授 村山 貞之
Professor Sadayuki Murayama

脳神経外科学講座 Neurosurgery

教授 石内 勝吾
Professor Shogo Ishiuchi

眼科学講座 Ophthalmology

教授 古泉 英貴
Professor Hideki Koizumi

育成医学講座 Child Health and Welfare

教授 中西 浩一
Professor Koichi Nakanishi
准教授 知念 安紹
Assoc.Prof. Yasutsugu Chinen

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery

教授 鈴木 幹男
Professor Mikio Suzuki
准教授 真栄田 裕行
Assoc.Prof. Hiroyuki Maeda

精神病態医学講座 Neuropsychiatry

教授 近藤 毅
Professor Tsuyoshi Kondo

再生医学講座 Regenerative Medicine

教授 野口 洋文
Professor Hirofumi Noguchi

先進ゲノム検査医学講座 Advanced Genomic and Laboratory Medicine

教授 前田 士郎
Professor Shiro Maeda
准教授 今村 美菜子
Assoc.Prof. Minako Imamura

分子解剖学講座 Molecular Anatomy

教授 高山 千利
Professor Chitoshi Takayama
准教授 清水 千草
Assoc.Prof. Chigusa Shimizu

ゲノム医学講座 Medical Genomics

准教授 小田 高也
Assoc.Prof. Takaya Oda

人体解剖学講座 Human Biology and Anatomy

教授 石田 肇
Professor Hajime Ishida
准教授 木村 亮介
Assoc.Prof. Ryosuke Kimura

分子・細胞生理学講座 Molecular and Cellular Physiology

教授 松下 正之
Professor Masayuki Matsushita
准教授 中村 真理子
Assoc.Prof. Mariko Nakamura

薬理学講座 Pharmacology

教授 筒井 正人
Professor Masato Tsutsui
准教授 山下 弘高
Assoc.Prof. Hirotaka Yamashita

胸部心臓血管外科学講座 Thoracic and Cardiovascular Surgery

准教授 山城 聡
Assoc.Prof. Satoshi Yamashiro

麻酔科学講座 Anesthesiology

教授 垣花 学
Professor Manabu Kakinohana
准教授 中村 清哉
Assoc.Prof. Seiya Nakamura

整形外科科学講座 Orthopedic Surgery

教授 西田 康太郎
Professor Kotaro Nishida
准教授 當銘 保則
Assoc.Prof. Yasunori Tome

形成外科学講座 Plastic and Reconstructive Surgery

教授 清水 雄介
Professor Yusuke Shimizu

泌尿器外科学講座 Urology

教授 齋藤 誠一
Professor Seiichi Saito

顎顔面口腔機能再建学講座 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation

教授 中村 博幸
Professor Hiroyuki Nakamura
准教授 西原 一秀
Assoc.Prof. Kazuhide Nishihara

救急医学講座 Emergency and Critical Care Medicine

教授 久木田 一朗
Professor Ichiro Kukita
准教授 福田 龍将
Assoc.Prof. Tatsuma Fukuda

臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics

教授 植田 真一郎
Professor Shin-ichiro Ueda
准教授 三輪 宜一
Assoc.Prof. Yoshikazu Miwa

薬物治療学講座(協力) Pharmacotherapy

教授 中村 克徳
Professor Katsunori Nakamura

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医化学講座 Medical Biochemistry

教授 苅谷 研一
Professor Ken-ichi Kariya

准教授 海川 正人
Assoc.Prof. Masato Umikawa

生化学講座 Biochemistry

教授 山本 秀幸
Professor Hideyuki Yamamoto

准教授 仲嶺 三代美
Assoc.Prof. Sayomi Nakamine

腫瘍病理学講座 Pathology and Oncology

教授 和田 直樹
Professor Naoki Wada

准教授 富田 真理子
Assoc.Prof. Mariko Tomita

細胞病理学講座 Pathology and Cell Biology

教授 加留部 謙之輔
Professor Kennosuke Karube

衛生学・公衆衛生学講座 Public Health and Hygiene

教授 中村 幸志
Professor Koshi Nakamura

准教授 花城 和彦
Assoc.Prof. Kazuhiko Hanashiro

法医学講座 Legal Medicine

教授 二宮 賢司
Professor Kenji Ninomiya

内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology

教授 益崎 裕章
Professor Hiroaki Masuzaki

准教授 森島 聡子
Assoc.Prof. Satoko Morishima

循環器・腎臓・神経内科学講座 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology

教授 大屋 祐輔
Professor Yusuke Ohya

准教授 石田 明夫
Assoc.Prof. Akio Ishida

消化器・腫瘍外科学講座 Digestive and General Surgery

教授 高槻 光寿
Professor Mitsuhsa Takatsuki

女性・生殖医学講座 Medical Science of Women and Reproduction

教授 青木 陽一
Professor Yoichi Aoki

微生物学・腫瘍学講座 Microbiology and Oncology

教授 森 直樹
Professor Naoki Mori

細菌学講座 Bacteriology

教授 山城 哲
Professor Tetsu Yamashiro

准教授 トーマ クラウディア
Assoc.Prof. Claudia Toma

寄生虫・免疫病因病態学講座 Parasitology and Immunopathology

教授 岸本 英博
Professor Hidehiro Kishimoto

准教授 當真 弘
Assoc.Prof. Hiromu Toma

皮膚科学講座 Dermatology

教授 高橋 健造
Professor Kenzo Takahashi

先進医療創成科学講座 Department of Investigative Medicine

感染症・呼吸器・消化器内科学講座 Infectious, Respiratory and Digestive Medicine

教授 藤田 次郎
Professor Jiro Fujita

准教授 健山 正男
Assoc.Prof. Masao Tateyama

生体防御学講座(協力) Host Defense

教授 松崎 吾朗
Professor Goro Matsuzaki

准教授 梅村 正幸
Assoc.Prof. Masayuki Umemura

准教授 高江洲 義一
Assoc.Prof. Giichi Takaesu

感染免疫制御学講座(協力) Vaccinology and Vaccine Immunology

教授 新川 武
Professor Takeshi Arakawa

ウイルス学講座 Virology

教授 大野 真治
Professor Shinji Ohno

臨床研究教育管理学講座 Clinical Research and Quality Management

教授(併) 植田 真一郎
Professor Shin-ichiro Ueda

医科学専攻(修士課程) Medical Sciences (Master's Program)

大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

保健学専攻(博士前期課程、博士後期課程) Health Sciences (Master's and Doctoral Program)

保健学研究科長(併) Dean

教授 小林 潤
Professor Jun Kobayashi

人間健康開発学領域 Human Health Promotion

国際島嶼保健学領域 International & Islands Health Sciences

医学部 Faculty of Medicine

医学部長(併) Dean
教授 石田 肇
Professor Hajime Ishida

副学部長(併) Vice-Dean
教授 岸本 英博
Professor Hidehiro Kishimoto

副学部長(併) Vice-Dean
教授 山城 哲
Professor Tetsu Yamashiro

副学部長(併) Vice-Dean
教授 高橋 健造
Professor Kenzo Takahashi

副学部長(併) Vice-Dean
教授 豊里 竹彦
Professor Takehiko Toyosato

医学科 School of Medicine

医学科長(併) Head
教授 筒井 正人
Professor Masato Tsutsui

保健学科 School of Health Sciences

保健学科長(併) Head
教授 小林 潤
Professor Jun Kobayashi

基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing

基礎看護学分野
Fundamental Nursing
教授 豊里 竹彦
Professor Takehiko Toyosato

疫学・健康教育学分野
Epidemiology and Health Promotion
教授 高倉 実
Professor Minoru Takakura

生物統計学分野
Biostatistics
教授 米本 孝二
Professor Koji Yonemoto

成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing

成人・がん看護学分野
Adult Health and Cancer Nursing
教授 照屋 典子
Professor Noriko Teruya
准教授 大湾 知子
Assoc.Prof. Tomoko Owan

在宅・慢性期看護学分野
Home Care and Chronic Care Nursing

老年看護学分野
Gerontological Nursing
教授 國吉 緑
Professor Midori Kuniyoshi

母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing

母性看護・助産学分野
Maternal Nursing and Midwifery
准教授 遠藤 由美子
Assoc.Prof. Yumiko Endoh
准教授(学内) 玉城 陽子
Assoc.Prof. Yoko Tamashiro

小児看護学分野
Child Health Nursing

国際地域保健学分野
Global Health
教授 小林 潤
Professor Jun Kobayashi
准教授 野中 大輔
Assoc.Prof. Daisuke Nonaka

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing

地域看護学分野
Community Health Nursing
講師 當山 裕子
Instructor Yuko Toyama
講師 當山 紀子
Instructor Noriko Toyama

精神看護学分野
Mental Health Nursing
教授 與古田 孝夫
Professor Takao Yokota

臨床心理・学校保健学分野
Clinical Psychology and School Health
講師 和氣 則江
Instructor Norie Wake

生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences

生体代謝学分野
Biometabolic Chemistry
教授 原嶋 奈々江
Professor Nanae Harashima
准教授 伊藤 早苗
Assoc.Prof. Sanae Ito

分子遺伝学分野
Molecular Genetics
教授 中尾 浩史
Professor Hiroshi Nakao

形態病理学分野
Morphological Pathology
教授 金城 貴夫
Professor Takao Kinjo

病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences

病原体検査学分野
Microbiology
教授 平井 到
Professor Itaru Hirai

生理機能検査学分野
Clinical Physiology
教授 粟田 久多佳
Professor Hisataka Awata

血液免疫検査学分野
Hematology
教授 福島 卓也
Professor Takuya Fukushima

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

共通機器・RI研究支援分野
Division of Shared Equipment and RI Research Support
分野長(併) 教授 筒井 正人
Director of the Division Professor Masato Tsutsui
准教授 江口 幸典
Assoc.Prof. Yukinori Eguchi

動物実験分野
Division of Experimental Animal Research
分野長(併) 教授 高山 千利
Director of the Division Professor Chitoshi Takayama
准教授 市瀬 広武
Assoc.Prof. Hirotake Ichise

バイオバンク分野
Division of Bio Bank
分野長(併) 教授 前田 士郎
Director of the Division Professor Shiro Maeda

再生医療分野
Division of Regenerative Medicine
分野長(併) 教授 野口 洋文
Director of the Division Professor Hirofumi Noguchi

臨床研究総合支援分野
Ryukyū Clinical Research Unit
分野長(併) 教授 植田 真一郎
Director of the Division Professor Shin-ichiro Ueda

生物統計・産学連携分野
Division of Biostatistics and Industry-Academia Collaboration
分野長(併) 教授 米本 孝二
Director of the Division Professor Koji Yonemoto

医学教育企画室 Office of Medical Education

室長(併)・教授 山本 秀幸
Professor Hideyuki Yamamoto
准教授 屋良 さとみ
Assoc.Prof. Satomi Yara

6 職員

病院職員 Hospital Staff

薬剤部 教授 Professor	Department of Pharmacy 中村 克徳 Katsunori Nakamura
地域医療部 診療教授 Clinical Professor	Department of Community Medical Service 中島 信久 Nobuhisa Nakajima
救急部 特命教授 Specially Appointed Professor	Emergency Unit 寺田 泰蔵 Taizo Terada
救急部 特命教授 Specially Appointed Professor	Emergency Unit 堂籠 博 Hiroshi Dohgomori
救急部 診療教授 Clinical Professor	Emergency Unit 中島 重良 Shigeyoshi Nakajima
救急部 特命准教授 Specially Appointed Assoc.Prof	Emergency Unit 玉城 佑一郎 Yuichiro Tamaki
放射線部 准教授 Assoc.Prof	Division of Radiological Service 平安名 常一 Joichi Heianna
高気圧治療部 准教授 Assoc.Prof	Center for Hyperbaric Medicine and Environmental Health 前原 博樹 Hiroki Maehara
血液浄化療法室 准教授 Assoc.Prof	Blood Purification Unit 古波蔵 健太郎 Kentaro Kohagura
医療情報部 教授 Professor	Medical Informatics 廣瀬 康行 Yasuyuki Hirose
周産母子センター 教授 Professor	Maternity and Perinatal Care Center 銘苅 桂子 Keiko Mekaru
周産母子センター 診療教授 Clinical Professor	Maternity and Perinatal Care Center 正本 仁 Hitoshi Masamoto
光学医療診療部 診療教授 Clinical Professor	Department of Endoscopy 外間 昭 Akira Hokama
がんセンター 診療教授 Clinical Professor	Cancer Center 増田 昌人 Masato Masuda
総合臨床研修・ 教育センター 診療教授 Clinical Professor	Comprehensive Health Professions Education Center 原永 修作 Syusaku Haranaga
診療情報管理センター 特命教授 Specially Appointed Professor	Health Information Management Center 平田 哲生 Tetsuo Hirata
心臓血管低侵襲治療センター 特命教授 Specially Appointed Professor	Non-invasive Cardiovascular Intervention Center 岩淵 成志 Masashi Iwabuchi
おきなわクリニカル シミュレーションセンター 特命教授 Specially Appointed Professor	Okinawa Clinical Simulation Center 奥村 耕一郎 Koichiro Okumura
沖縄県地域医療支援センター 特命准教授 Specially Appointed Assoc.Prof	Okinawa Community Medicine Support Center 川妻 由和 Yoshikazu Kawazuma

Academic and Administrative Staffs

職員数 Number of Staff Member

令和2年5月1日現在
(as of May 1, 2020)

職種区分 Classification	医学部 Faculty of Medicine		医学研究科 Graduate School of Medicine		大学病院 University Hospital		上原キャンパス 事務部 Administration Division of Uehara Campus		
	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	
教員 Academic	教授 Professors	17[4]	0	35	0	8[5]	0	0	0
	准教授 Associate Professors	7	0	24[1]	0	11[6]	0	0	0
	講師 Lecturers	6[1]	0	1	0	29[5]	0	0	0
	助教 Assistant Professors	15[2]	0	71[4]	1[1]	68[9]	0	0	0
医員 Medical Staffs	0	0	0	0	0	192	0	0	
専門指導医 Medical Directors	0	0	0	0	0	14	0	0	
研修医 Residents	0	0	0	0	0	32	0	0	
ポスドク研究員 Postdoctoral Fellows	0	1	0	0	0	2	0	0	
産学官連携研究員 Research Fellows	0	1	0	0	0	0	0	0	
特命研究員 Specially Appointed Fellows	0	0	2[2]	0	0	0	0	0	
事務系職員 Administrative Staffs	7	44	1[1]	0	14[7]	80	101	56	
技能職員 Technical Staffs	36	61	0	0	16[3]	43	0	6	
医療系職員 Paramedical	0	0	0	0	183[3]	15	0	0	
看護師 Nurses	0	0	0	0	682	26	0	0	
看護助手 Nurses Aides	0	0	0	0	0	65	0	0	
教務職員 Research Associates	1	1	0	0	0	0	0	0	
合計 Total	89 [7]	108	134 [8]	1 [1]	1011 [38]	469	101	62	

注 [] は特命職員又は寄附講座教員で内数
注 長期休暇者(育児休業者など)を除く

附属図書館医学部分館 Library, Medical Division

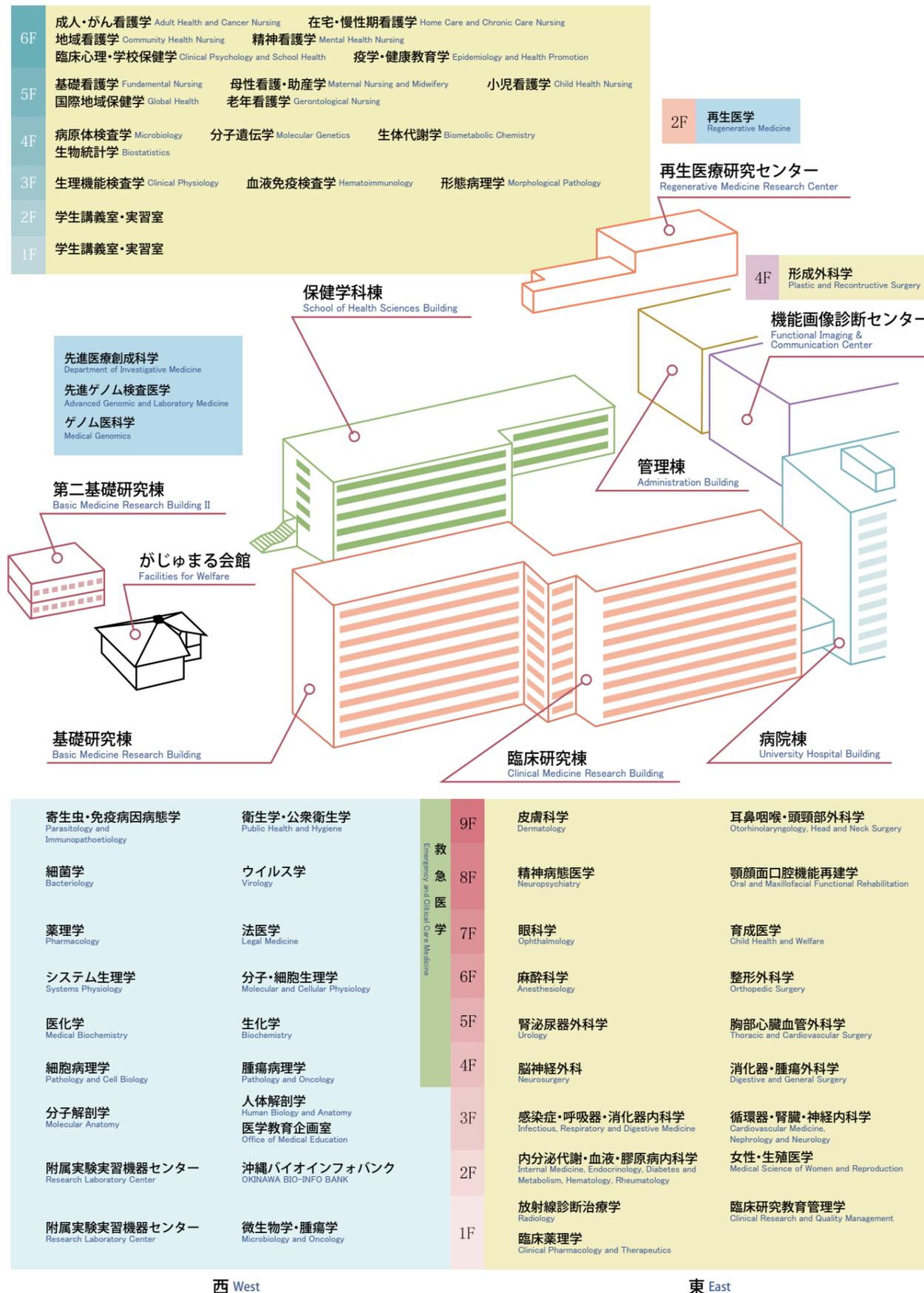
医学部分館長(併)・教授 金城 貴夫
Director, Professor Takao Kinjo

上原キャンパス事務部 Administration Division of Uehara Campus

事務部長 Director	鬼村 博幸 Hiroyuki Onimura	総務課長 Head for General Affairs Section	金城 不二子 Fujiko Kinjo
企画課長 Head for Planning Section	小渡 志保子 Shihoko Odo	管理課長 Head for Accounting Section	照屋 智 Satoshi Teruya
医事課長 Head for Medical Affairs Section	高橋 圭郎 Keiro Takahashi	学務課長 Head for Student Affairs Section	野原 茂 Shigeru Nohara

7 講座及び分野配置図

Departments and Subjects Map



1.医学部学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Medical Students

令和2年5月1日現在 (as of May1,2020)

学科 School	入学定員 Enrollment Quota 内数5名 2年次編入	収容定員 Total Number	現員 Present Number of Medical Students													
			1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		5年 Fifth		6年 Sixth		合計 Total	
			男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学科 School of Medicine	117 (5)	697	72	51	71	61	62	40	76	55	69	46	81	42	431	295
保健学科 School of Health Sciences	60	240	16	46	14	43	22	43	17	40					69	172
			62		57		65		57						241	

2.医学部入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and Enrollment

令和2年度

学科 School	入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted		
		男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total
医学科 School of Medicine	112	367	250	617	63	49	112
保健学科 School of Health Sciences	60	41	137	178	16	44	60

3.医学部学生の都道府県別入学状況 Regional Distribution of Enrollment

令和2年度

学科 School	沖縄 Okinawa	栃木 Tochigi	千葉 Chiba	東京 Tokyo	神奈川 Kanagawa	愛知 Aichi	大阪 Osaka	宮崎 Miyazaki	その他 Others	合計 Total	
医学科 School of Medicine	77 (41)	2 (1)	2 (1)	5 (1)	3 (1)	2 (1)	4 (1)	2 (0)	15 (3)	112 (49)	
学科 School	沖縄 Okinawa	岩手 Iwate	東京 Tokyo	静岡 Shizuoka	佐賀 Saga	その他 Others	合計 Total				
保健学科 School of Health Sciences	55 (39)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	60 (44)				

注()は女子で内数 Note:The number of female students is indicated in parentheses.

4.大学院学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Graduate School Students

令和2年5月1日現在 (as of May1,2020)

研究科 Graduate School	入学定員 Enrollment Quota	収容定員 Total Number	現員 Present Number of Graduate School Students										
			1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		合計 Total		
			男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	30	4	5	8	6					12	11
	博士 Doctoral Course	30	120	15	9	23	15	18	17	71	26	127	67
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	20	1	4	3	9					4	13
	博士後期 Doctoral Course	3	9	2	2	2	0	3	11			7	13
				4		2		14				20	

5.大学院入学志願者数及び入学者数 Number of Graduate School Applicants and Enrollment

令和2年度

研究科 Graduate School	入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted			
		男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total	
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	6	5	11	4	5	9
	博士 Doctoral Course	30	14	9	23	14	9	23
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	0	4	4	0	4	4
	博士後期 Doctoral Course	3	2	3	5	2	1	3

6.外国人留学生状況 Number of International Students

令和2年5月1日現在 (as of May1,2020)

研究科 Graduate School	1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		5年 Fifth		6年 Sixth		合計 Total	
	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学研究科 Graduate School of Medicine	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	1	0	0	0								1	0
	博士 Doctoral Course	0	0	1(1)	0	0	0	0	1				1(1)	1
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	0	0	0	1								0	1
	博士後期 Doctoral Course	0	1	1(1)	0	0	2(2)						1(1)	3(2)
		1		1(1)		2(2)							4(3)	

注()は国費留学生で内数 Note:The number of Japanese Government Scholarship Students is indicated in parentheses.

9

大学院

Graduate Schools

医学研究科 Graduate School of Medicine

修士課程 Master's Program	医科学専攻 Medical Science	入学定員 Enrollment Quota	15人
博士課程 Doctoral Program	医学専攻 Medicine	入学定員 Enrollment Quota	30人

保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

博士前期課程 Master's Program	保健学専攻 Health Sciences (人間健康開発学領域、国際島嶼保健学領域) (Human Health Promotion, International & Island Health Sciences)	入学定員 Enrollment Quota	10人
博士後期課程 Doctoral Program	保健学専攻 Health Sciences (人間健康開発学領域、国際島嶼保健学領域) (Human Health Promotion, International & Island Health Sciences)	入学定員 Enrollment Quota	3人

10 解剖体

Autopsies for
Gross Anatomy

区分 Classification	収集数 Number of Cadavers Gathered	解剖数 Number of Autopsies	実習時間 Practical Period	備考
平成26年度 (2014)	38	28 8 2	26. 4. 7 ~ 26. 6. 27 26. 7. 7 ~ 26. 7. 25 26. 9. 8 ~ 26. 10. 2	解剖学 I 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学
平成27年度 (2015)	39	27 10 1 1	27. 4. 7 ~ 27. 7. 5 27. 7. 6 ~ 27. 7. 27 27. 7. 6 ~ 27. 7. 27 27. 9. 7 ~ 27. 9. 25	肉眼解剖学 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学 臨床自由選択人体解剖学
平成28年度 (2016)	47	29 10 2 28	28. 4. 4 ~ 28. 7. 13 28. 7. 4 ~ 28. 7. 25 28. 7. 4 ~ 28. 7. 25 28. 9. 28 ~ 28. 2. 27	肉眼解剖学 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習
平成29年度 (2017)	58	4 3 29	29. 4. 17 ~ 29. 7. 28 29. 7. 3 ~ 29. 7. 28 29. 9. 27 ~ 29. 12. 25	解剖学実習 (M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習 (M1)
平成30年度 (2018)	36	2 6 29	30. 4. 16 ~ 30. 8. 8 30. 7. 2 ~ 30. 8. 8 30. 9. 28 ~ 30. 3. 2	解剖学実習 (M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習 (M1)
令和元年度 (2019)	44	3 6 29	31. 4. 8 ~ 元. 8. 20 元. 7. 1 ~ 元. 8. 2 元. 7. 17 ~ 2. 3. 1	解剖学実習 (M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習 (M1)

11 図書・学術雑誌

Collection of Books and Journals

(医学部分館 令和2年4月1日現在) (as of April, 2020)

区分 Classification	図書 Books	学術雑誌 Journals
和書 Japanese	57,890冊	2,273種
洋書 Foreign	46,880冊	1,504種
合計 Total	104,770冊	3,777種

12 附属施設

Laboratory Centers

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

先端医学研究センターは、基礎研究支援部門と臨床研究支援部門から構成され、沖縄健康医療拠点構想の実現に向け、研究の活性化に資することを目的としています。また、国、沖縄県等の関係機関や製薬協等産業界と協力し、産学官連携による沖縄発の医療イノベーションの創出に繋がります。これらの取組により、拠点構想における先端医学研究及び創薬分野等における実装化の基盤を形成してゆきます。具体的には、島嶼県という地理的特徴を生かした感染症、稀少疾患、生活習慣病などの新規治療法・予防法開発を目指した研究環境整備を更に進めることで、本学の特色ある研究を推進し、高度医療・研究機能の拡充を図ります。



附属実験実習機器センター Research Laboratory Center

当センターは、大型の研究機器の効率的な管理・運用を目的として、昭和58年8月、医学部基礎研究棟の1階と2階に医学部附属共同利用施設として設立されました。当センターには、電子顕微鏡を備えた形態部門、生化学・分子生物学関連の機器を備えた分析部門、P3レベルの組換え生物・病原微生物の実験が可能な実験室を備えたバイオハザード部門、各種医用電子機器を備えた電子機器部門、および学内LAN・ネットワーク機器の管理などを行う情報部門があります。最近、共焦点レーザー顕微鏡、セルアナライザー、セルソーター等の細胞解析装置や、次世代DNAシーケンサー、DNAマイクロアレイ、デジタルPCR装置などのゲノム解析装置が順次導入され広く利用されています。当センターでは、今後、これらの機器を活用した研究の推進に貢献すると共に、さらなる機能強化を図って行きたいと考えています。



マイクロアレイ解析装置



画像解析装置



細胞解析分取装置



パーソナル次世代DNAシーケンサー

附属動物実験施設 Institute for Animal Research



附属動物実験施設



飼育装置

医学部附属の共同利用施設として、昭和58年10月31日に第一期、昭和62年9月30日に第二期、平成5年3月31日に第三期の各工事を経て、合計約3,000㎡の動物実験施設が竣工しました。

本施設は医学部附属施設ですが、本学唯一の動物実験施設であることから学内共同利用施設として位置付けられており、他学部の研究者及び学生にも開放されています。施設は、臨床・基礎研究棟から独立した鉄筋コンクリート3階建ての建物で、通常条件下での動物飼育・実験室のほかに、感染実験動物飼育室・実験室、SPF動物飼育室・実験室、教員実験室、多目的飼育室、実習用セミナー室、洗浄滅菌室、事務室等からなっています。実験動物学の研究、教育の発展に対する貢献を目指して施設機能の充実を図っています。

再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center

沖縄県の再生医療中核拠点として、平成27年4月に再生医療研究センターが設置され、同年6月に開所式が行われました。当センターは、ロート製薬(株)から寄贈された2階建ての建物(延床面積812m²)の1階部分に、沖縄県の先端医療産業開発拠点形成事業で整備された本格的な細胞培養加工施設(床面積224m²)を有しています。この細胞培養加工施設は、合計12のユニットからなる本格的なもので、近年主流になりつつあるアイソレータ方式を採用しています。このアイソレータ内は極めて高い無菌状態となっており、GMP基準に準

拠した再生医療用の細胞を調製できます。当センターの業務は、細胞培養加工施設を維持管理・運営しつつ、安全な再生医療用の細胞を供給し、医学部附属病院や医療機関、研究機関、企業などと連携して優れた再生医療研究を実用化することです。将来的には、当センターにて実用化された再生医療を多くの患者さんに提供し、沖縄県の健康社会の実現と再生医療の産業化推進に貢献したいと考えています。



再生医療研究センター外観



細胞調製ユニット内のアイソレータ

RI 実験施設(学内措置施設) Medical Radioisotope Institute

RI実験施設は、昭和58年11月科学技術庁による承認を受け、3階建て延べ約1,200m²の管理区域からなる学内共同利用施設として開設され、医学部放射線安全委員会ならびにRI実験施設運営委員会の指導の下、施設長(兼任)、施設主事(兼任)、教務職員(専任)、事務補佐員(非常勤)の4名が、利用者に対する定期的な教育訓練、被ばく管理、ならびに施設の安全管理等の業務を担当しています

当実験施設には、RI測定用機器室に加え、生化学・分子生物学実験室、動物実験室および動物飼育室、ならびにP2レベル

の細胞培養室が設置されています。過去数十年間、RIは医学や生物学的研究の発展に輝かしい功績を残してきましたが、近年、実験系のNon-RI化が進行し、以前に比べると当実験施設の利用頻度も減少しております。しかしながら、RI標識の特性である、化学的特性を変えずに高感度で目的物質を検出するという利点から、RIの利用は研究上欠くべからざる手段として、今後も続くと予想されます。従って、より一層の設備の充実を図ることで、より先進的な研究環境の提供を目指しています。



施設外観



β線測定室

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
システム生理学 Systems Physiology	宮里 実 Minoru Miyazato, M.D., Ph.D.	神経科学、神経生理学、膜電位の光学的測定 Neuroscience, Neurophysiology, Optical Monitoring of Membrane Potential 海馬スライスの電気生理学的測定、行動実験 Electrophysiological Studies of Hippocampal Slices, Behavioral Experiments.
放射線診断治療学 Radiology	村山 貞之 Sadayuki Murayama, M.D., Ph.D.	胸部画像診断学、放射線診断学、コンピュータX線画像 Chest Radiology, Diagnostic Radiology, Computed Radiography
脳神経外科学 Neurosurgery	石内 勝吾 Shogo Ishiuchi, M.D., Ph.D.	脳神経外科、脳腫瘍・頭蓋底外科、小児脳腫瘍外科 Neurosurgery, Brain Tumor/Skull Base Surgery, Pediatric Neuro-oncology
眼科学 Ophthalmology	古泉 英貴 Hideki Koizumi, M.D., Ph.D.	黄斑疾患、網膜硝子体疾患、緑内障 Macular Disease, Vitreoretinal Disease, Glaucoma
育成医学 Child Health and Welfare	中西 浩一 Koichi Nakanishi, M.D., Ph.D.	小児科学、小児腎臓病、遺伝性腎疾患 Pediatrics, Pediatric Nephrology, Hereditary Renal Disease
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	鈴木 幹男 Mikio Suzuki, M.D., Ph.D.	側頭骨外科、人工内耳手術、頭頸部腫瘍外科、鼻副鼻腔内視鏡手術神経耳科 Temporal Bone Surgery, Cochlear Implant, Head and Neck Surgery, Endoscopic Sinonasal Surgery, and Neuro-otology
精神病態医学 Neuropsychiatry	近藤 毅 Tsuyoshi Kondo, M.D., Ph.D.	精神薬理学、臨床心理学、精神病理学、予防精神医学 Psychopharmacology, Clinical psychology, Psychopathology, Preventive Psychiatry
再生医学 Regenerative Medicine	野口 洋文 Hirofumi Noguchi, M.D., Ph.D.	再生医学、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
先進ゲノム検査医学 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	前田 士郎 Shiro Maeda, M.D., Ph.D.	集団遺伝学、疾患感受性遺伝子研究 Population Genetics, Genetic Study for Common Disease Susceptibility
分子解剖学 Molecular Anatomy	高山 千利 Chitoshi Takayama, M.D., Ph.D.	神経解剖学、神経生物学、発生学、生殖生物学 Neuroanatomy, Neurobiology, Embryology, Reproductive Biology
ゲノム医科学 Medical Genomics		
人体解剖学 Human Biology and Anatomy	石田 肇 Hajime Ishida, M.D., Ph.D.	形質人類学、人類遺伝学、肉眼解剖学、発生生物学 Physical Anthropology, Human Genetics, Gross Anatomy, Developmental Biology
分子・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology	松下 正之 Masayuki Matsushita, M.D., Ph.D.	分子生理学・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology
薬理学 Pharmacology	筒井 正人 Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.	薬理学、一酸化窒素、循環器病学、イオウ生物学 Pharmacology, Nitric Oxide, Cardiology, Sulfur Biology
胸部心臓血管外科学 Thoracic and Cardiovascular Surgery		心臓血管外科学、呼吸器外科学、一般外科学、人工臓器 Cardiovascular Surgery, General Thoracic Surgery, General Surgery, Artificial Organ
麻酔科学 Anesthesiology	垣花 学 Manabu Kakinohana, M.D., Ph.D.	呼吸不全、脳・脊髄循環及び代謝、集中治療医学、疼痛管理学 Respiratory Failure, Cerebrospinal Circulation and Metabolism, Intensive Care Medicine, Pain Clinic

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
整形外科学 Orthopedic Surgery	西田 康太郎 Kotaro Nishida, M.D., Ph.D.	整形外科学、脊椎外科学、骨軟部腫瘍学、関節外科学、手外科学、小児整形外科学、関節リウマチ学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、マイクロ手術、内視鏡手術、外傷学、再建外科学 Orthopedic Surgery, Spine Surgery, Bone & Soft Tissue Tumor, Joint Surgery, Hand Surgery, Pediatric Orthopedic Surgery, Rheumatology, Rehabilitation Medicine, Sport Medicine, Micro Surgery, Endoscopic Surgery, Traumatology, Reconstructive Surgery
形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	清水 雄介 Yusuke Shimizu, M.D., Ph.D.	形成外科学、再建外科学、マイクロサージャリー、眼形成外科、先天異常学、幹細胞生物学 Plastic Surgery, Reconstructive Surgery, Micro Surgery, Ophthalmic Plastic Surgery, teratology, Stem cell biology
腎泌尿器外科学 Urology	齋藤 誠一 Seiichi Saito, M.D., Ph.D.	泌尿器系癌、ロボット支援手術、腹腔鏡手術、排尿機能、小児泌尿器科、腎移植、尿路結石および尿路感染症、骨盤臓器脱、糖鎖生物学、腫瘍マーカー Urologic Oncology, Robot-assisted Surgery, Laparoscopic Surgery, Urinary function, Pediatric Urology, Renal Transplantation, Urolithiasis & urinary tract infection, Pelvic Organ Prolapse, Glycobiology, Tumor marker
顎顔面口腔機能再建学 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation	中村 博幸 Hiroyuki Nakamura, M.D., Ph.D.	口腔外科学、口腔科学、口腔腫瘍生物学、社会歯学、再生歯学 Oral surgery, Oral science, Oral tumor biology, Social dentistry, Regenerative dentistry
救急医学 Emergency and Critical Care Medicine	久木田 一郎 Ichiro Kukita, M.D., Ph.D.	救急医学、救命救急医学、外傷学、中毒学、災害医学、遠隔医療学 Emergency Medicine, Critical Care Medicine, Traumatology, Toxicology, Disaster Medicine, Telemedicine
臨床薬理学 Clinical Pharmacology and Therapeutics (Cardiovascular)	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	心血管臨床薬理学、心血管内分泌代謝学、一般内科治療学、EBMと臨床試験 Cardiovascular Clinical, Pharmacology and Therapeutics, Cardiovascular Endocrinology and Meta-bolism, General Medicine, Evidence Based Medicine and Clinical Trial
薬物治療学(協力) Pharmacotherapy	中村 克徳 Katsunori Nakamura, Ph.D.	薬物代謝学、薬理遺伝学 Drug metabolism, Pharmacogenetics
医化学 Medical Biochemistry	苅谷 研一 Ken-ichi Kariya, M.D., Ph.D.	細胞内情報伝達系の分子生物学と分子遺伝学 Molecular Biology and Genetics of Intracellular Signal Transduction Systems
生化学 Biochemistry	山本 秀幸 Hideyuki Yamamoto, M.D., Ph.D.	細胞の分化と機能発現の分子機構、神経化学 Molecular Mechanisms for Cell Differentiation and Functions, Neurochemistry
腫瘍病理学 Pathology and Oncology	和田 直樹 Naoki Wada, M.D., Ph.D.	腫瘍の臨床病理学的解析および幹細胞的性格を有する細胞群に関する研究 Clinicopathological analysis of tumors and study on the subpopulation with stem cell character
細胞病理学 Pathology and Cell Biology	加留部 謙之輔 Kensuke Karube, M.D., Ph.D.	造血器腫瘍の臨床病理学的解析、分子遺伝学的解析 Clinico-Pathological and molecular analysis of hematopoietic tumors
衛生学・公衆衛生学 Public Health and Hygiene	中村 幸志 Koshi Nakamura, M.D., Ph.D.	疫学、生活習慣病(循環器領域) 予防、健康増進 Epidemiology, Prevention of Lifestyle-related Disease (e.g. Cardiovascular and Metabolic Disease), Health Promotion
法医学 Legal Medicine	二宮 賢司 Kenji Ninomiya, M.D., Ph.D.	法医学病理学、法医中毒学 Forensic Pathology, Forensic Toxicology
内分泌代謝・血液・膠原病内科学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	益崎 裕章 Hiroaki Masuzaki, M.D., Ph.D.	内科学、内分泌・代謝病学、糖尿病学、血液病学、膠原病・リウマチ学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology
循環器・腎臓・神経内科学 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	大屋 祐輔 Yusuke Ohya, M.D., Ph.D.	内科学、循環器病学、腎臓病学、高血圧学、神経病学、脳卒中学、臨床疫学 Internal Medicine, Cardiology, Nephrology, Hypertension, Neurology, Stroke, Clinical Epidemiology
消化器・腫瘍外科学 Digestive and General Surgery	高槻 光寿 Mitsuhsa Takatsuki, M.D., Ph.D.	一般外科学、消化器外科学、乳腺内分泌外科学、小児外科学 General Surgery, Gastroenterological Surgery, Breast and Endocrine Surgery, Pediatric Surgery
女性・生殖医学 Medical Science of Women and Reproduction	青木 陽一 Yoichi Aoki, M.D., Ph.D.	婦人科腫瘍学、生殖医学、周産期医学、婦人科手術学、内視鏡下手術 Gynecologic Oncology, Reproductive Medicine, Perinatal Medicine, Gynecologic Surgery, Endoscopic Surgery

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
微生物学・腫瘍学 Microbiology and Oncology	森 直樹 Naoki Mori, M.D., Ph.D.	ウイルスおよび細菌関連腫瘍における発がん機構の解析とその予防・治療法の開発 Analysis of Mechanisms for Viral and Bacterial Pathogens-associated Carcinogenesis, and Development of Novel Molecular-targeted Prevention and Therapy of Malignancy
細菌学 Bacteriology	山城 哲 Tetsu Yamashiro, M.D., Ph.D.	病原細菌における病原因子の解明・制御に関する研究および疫学的研究 Studies on pathogenesis and epidemiology and control of bacteria causing tropical diseases.
寄生虫・免疫病態学 Parasitology and Immunopathology	岸本 英博 Hidehiro Kishimoto, M.D., Ph.D.	寄生虫及び感染症の免疫学的、分子生物学的研究 Immunological and Molecular Biological Research on Parasitic Diseases
皮膚科学 Dermatology	高橋 健造 Kenzo Takahashi, M.D., Ph.D.	皮膚科学、皮膚腫瘍学、皮膚老化、角化症、琉球地方の皮膚病 Dermatology, Skin Cancer, Skin aging, Genodermatosis, Skin diseases of the Ryukyus
先進医療創成科学 Department of Investigative Medicine		
感染症・呼吸器・消化器内科学 Infectious, Respiratory and Digestive Medicine	藤田 次郎 Jiro Fujita, M.D., Ph.D.	感染症学、呼吸器病学、消化器病学、化学療法学、臨床微生物学 Infectious Diseases, Respiratory Diseases, Digestive Diseases, Chemotherapy, Clinical Microbiology
生体防御学(協力) Host Defense	松崎 吾朗 Goro Matsuzaki, M.D., Ph.D.	結核などの細菌感染症に対する防御免疫機構の解明 Protective Immunity and its Regulation against Infections of Mycobacteria and Other Bacteria
感染免疫制御学(協力) Vaccinology and Vaccine Immunology	新川 武 Takeshi Arakawa, Ph.D.	感染症ワクチン開発 Vaccine development against infectious diseases
ウイルス学 Virology	大野 真治 Shinji Ohno, M.D., Ph.D.	ウイルス宿主間相互作用、ワクチン開発、ウイルス疫学 Virus-Host Interaction, Vaccine Development, and Viral Epidemiology
臨床研究教育管理学 Clinical Research and Quality Management	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	臨床研究のデザイン・データ管理・解析・品質管理 Study design, Data management, Biostatistics and Quality management for Investigator-initiated Clinical Research



医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing

分野	教授名	主要研究概要
基礎看護学 Fundamental Nursing	豊里 竹彦 Takehiko Toyosato, R.N., Ph.D.	基礎看護学、看護教育 Fundamental Nursing, Nursing Education
疫学・健康教育学 Epidemiology and Health Promotion	高倉 実 Minoru Takakura, Ph.D.	学校保健学、社会疫学、行動疫学、健康教育学 School Health, Public Health, Social Epidemiology, Behavioral Epidemiology, Health Promotion and Education
生物統計学 Biostatistics	米本 孝二 Koji Yonemoto, Ph.D.	生物統計学 Biostatistics

成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing

分野	教授名	主要研究概要
成人・がん看護学 Adult Health and Cancer Nursing	照屋 典子 Noriko Teruya, R.N., Ph.D.	成人看護学、がん看護学、緩和ケア Adult Health Nursing, Cancer Nursing, Palliative Care
在宅・慢性期看護学 Home Care and Chronic Care Nursing		
老年看護学 Gerontological Nursing	國吉 緑 Midori Kuniyoshi, R.N., Ph.D.	老年看護学 Gerontological Nursing

母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing

分野	教授名	主要研究概要
母性看護・助産学 Maternal Nursing and Midwifery		母性看護学、助産学 Maternity Nursing, Midwifery
小児看護学 Child Health Nursing		小児看護学、母子看護学 Child Health Nursing, Maternal and Child Health Nursing
国際地域保健学 Global Health	小林 潤 Jun Kobayashi, M.D., Ph.D.	国際保健学 Global Health

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing

分野	教授名	主要研究概要
地域看護学 Community Health Nursing		公衆衛生看護学、地域看護学 Public Health Nursing, Community Health Nursing
精神看護学 Mental Health Nursing	與古田 孝夫 Takao Yokota, R.N., Ph.D.	精神看護学、精神保健学 Mental Health Nursing, Mental Health
臨床心理・学校保健学 Clinical Psychology and School Health		臨床心理学、学校保健学 Clinical Psychology, School Health

生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences

分野	教授名	主要研究概要
生体代謝学 Biometabolic Chemistry	原嶋 奈々江 Nanae Harashima, Ph.D.	生化学、腫瘍免疫学 Biochemistry, Tumor Immunology
分子遺伝学 Molecular Genetics	中尾 浩史 Hiroshi Nakao, Ph.D.	分子遺伝学、細菌学、薬物代謝、薬草の抗酸化作用 Molecular Genetics, Bacteriology, Drug Metabolism, Antioxidant Action of Medicinal Herbs
形態病理学 Morphological Pathology	金城 貴夫 Takao Kinjo, M.D., Ph.D.	病理学、臨床細胞学、実験病理学、沖縄県の感染症の病理学的及び分子生物学的解析 Pathology, Clinical Cytology, Experimental Pathology, Molecular and Pathological Analysis of Infectious Diseases in Okinawa

医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences

分野	教授名	主要研究概要
病原体検査学 Microbiology	平井 到 Itaru Hirai, Ph.D.	微生物学、腸内細菌学 Microbiology, Intestinal Bacteriology
生理機能検査学 Clinical Physiology	粟田 久多佳 Hisataka Awata, M.D., Ph.D.	腎臓病学、生理機能検査学 Nephrology Clinical Physiology
血液免疫検査学 Hematology	福島 卓也 Takuya Fukushima, M.D., Ph.D.	血液学、成人T細胞白血病、リンパ腫の臨床研究及び分子生物学的研究 Hematology, Clinical Study and molecular biology of adult T-cell leukemia-lymphoma

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

分野	教授名	主要研究概要
共通機器・RI研究支援分野 Division of Shared Equipment and RI Research Support	筒井 正人 Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.	分子細胞生物学、生化学、病理学、医療情報学 Molecular Cell Biology, Biochemistry, Pathology, Medical Informatics
動物実験分野 Division of Experimental Animal Research	高山 千利 Chitoshi Takayama, M.D., Ph.D.	実験動物学 Laboratory Animal Science
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	前田 士郎 Shiro Maeda, M.D., Ph.D.	沖縄バイオインフォメーションバンク構築、生活習慣病関連ゲノム研究、標準ゲノム配列情報整備 Construction of Okinawa Bio Information Bank, Genetic Study for Life-style Related Diseases, Preparation of The Reference Panel Sequence for The Okinawa Population
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	野口 洋文 Hirofumi Noguchi, M.D., Ph.D.	再生医療、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
臨床研究総合支援分野 Ryukyū Clinical Research Unit	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	臨床研究立案、計画作成、実施支援、データ管理、解析、品質管理、文書作成、臨床研究トレーニング、教育プログラム作成 Support for Clinical Research Planning, Protocol Development, Conducting, Data Management & Analysis, Quality Management & Assurance, Medical Writing, Clinical Research Training, Development of Education Program
生物統計・産学連携分野 Division of Biostatistics and Industry-Academia Collaboration	米本 孝二 Koji Yonemoto, Ph.D.	生物統計学 Biostatistics

医学教育企画室 Office of Medical Education

施設	教授名	主要研究概要
医学教育企画室 Office of Medical Education	室長(併) 山本 秀幸 Hideyuki Yamamoto, M.D., Ph.D.	医学教育学 Medical Education Studies



14 土地・建物・建物配置図

土地及び建物 Site and Floorage of the Buildings

面積 Area	敷地面積 Site	139,169 m ²
	建物総面積 Total Floorage	98,323 m ²

建設年度 Year of Construction

名称 Name	建面積 Floorage	延面積 Total Floorage	建設年度 Year of Construction
① 基礎研究棟 Basic Medicine Research Building	962 m ²	7,931 m ²	昭和58.2 1983. February
② 臨床研究棟 Clinical Medicine Research Building	1,046 m ²	8,436 m ²	昭和59.1 1984. January
③ 基礎講義実習棟 Basic Medical Lecture Laboratory Building	1,107 m ²	3,074 m ²	昭和57.10 1982. October
④ 解剖法医棟 Anatomy / Legal Medicine Building	577 m ²	1,142 m ²	昭和57.10 1982. October
⑤ 臨床講義棟 Clinical Lecture Building	609 m ²	1,240 m ²	昭和58.12 1983. December
⑥ 保健学科棟 School of Health Sciences Building	1,143 m ²	6,252 m ²	昭和58.2 1983. February
⑦ RI・動物実験施設 Institute for Animal Research / Radioisotope Center	1,395 m ²	3,961 m ²	昭和58.10 1983. October
⑧ 福利棟(がじゅまる会館) Facilities for Welfare	990 m ²	1,687 m ²	昭和58.3 1983. March
⑨ 附属図書館医学部分館 Library, Medical Division	761 m ²	1,403 m ²	昭和59.3 1984. March
⑩ 体育館 Gymnasium	1,247 m ²	1,063 m ²	昭和60.3 1985. March
⑪ 管理棟 Administration Building	741 m ²	1,967 m ²	昭和59.3 1984. March
⑫ 第二基礎研究棟 Basic Medicine Research Building II	473 m ²	829 m ²	平成2.3 1990. March
⑬ 琉球大学病院 University of the Ryukyus Hospital	8,233 m ²	40,386 m ²	昭和58.12 1983. December
⑭ 高エネルギー・高圧治療施設棟 High Energy / Hyperbaric Therapy Unit	734 m ²	821 m ²	昭和59.3 1984. March
⑮ RI診療棟 Radioisotope Therapy Unit	338 m ²	624 m ²	昭和62.3 1987. March
⑯ MRI-CT装置棟 MRI - CT Unit	705 m ²	709 m ²	平成8.7 1996. July
⑰ リニアク診療施設棟 Liniac Treatment Ward	294 m ²	293 m ²	平成元.3 1989. March
⑱ 看護師宿舎 Dormitory for Nurses	316 m ²	1,384 m ²	昭和59.3 1984. March
⑲ 中央設備機械室 Central Facilities / Machinery Unit	1,287 m ²	1,647 m ²	昭和58.12 1983. December
⑳ 総合臨床研修・教育センター Comprehensive Health Professions Education Center	697 m ²	1,284 m ²	平成23.8 2011. August
㉑ おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center	878 m ²	2,288 m ²	平成24.2 2012. February
㉒ 機能画像診断センター Functional Imaging & Communication Center	507 m ²	1,952 m ²	平成25.2 2013. February
㉓ 中央電気室 Central Facilities / Electricity Unit	439 m ²	611 m ²	平成25.3 2013. March
㉔ 救急災害医療棟 Emergency and Disaster Medicine Building	742 m ²	680 m ²	平成26.11 2014. November
㉕ 再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center	554 m ²	812 m ²	平成27.6 2015. June
㉖ 駐車場、その他 Parking Place, Others	3,539 m ²	5,847 m ²	
面積計 Floorage	30,314 m ²	98,323 m ²	

Campus and Buildings



15 アクセス

Access



[空港から]

モノレール

モノレール → 儀保駅 → 路線バス → 97 (那覇バス) → 琉球大学医学部・病院
●所要時間:約25分 ●所要時間:約30分

モノレール → 首里駅 → 路線バス → 94 (那覇バス) → 琉球大学医学部・病院
●所要時間:約27分 ●所要時間:約25分
タクシー
●所要時間:約15分

タクシー

所要時間:約35分
路線:●空港→沖縄自動車道→琉球大学医学部・病院
●空港→那覇うみそらトンネル→国道330号→琉球大学医学部・病院

[那覇バスターミナルから]

バス

路線バス(20~30分に1本)

97 番線(琉大線) 那覇バス株式会社

所要時間:約50分
のりば:市外線バスターミナル(那覇市泉崎)4番ホーム
路線:バスターミナル(泉崎)→国際通り(牧志)→儀保(首里)→琉球大学医学部・附属病院前